



CE9.13

Cisco Webex Room ユーザーガイド
Touch10 を使用するデバイス

目次

このユーザ ガイドの内容

ビデオ会議：概要	
ベストプラクティス.....	4
自分のログイン情報でのログオン.....	5
USB カメラとしての Room Kit Mini の使用.....	6
ビデオ コール	
連絡先リストからのコールの発信.....	8
発信前の連絡先の編集.....	9
名前、電話番号、または IP アドレスを使用したコールの発信.....	10
着信—通話中でない場合.....	11
通話中に別の通話に応答する.....	12
通話から自分を切断する.....	13
通話を保留にする/保留中の通話を再開する.....	14
対応中の通話を転送する.....	15
応答不可の有効化.....	16
すべての通話の自動転送.....	17
通話中にキーパッドを表示する.....	18
既存のコールへの参加者の追加.....	19
会議から参加者を切断する.....	20
Intelligent Proximity	
Cisco Proximity の超音波信号.....	22
コンテンツ共有	
通話でのコンテンツ共有.....	24
コール外でのコンテンツ共有.....	25
通話中にプレゼンテーション レイアウトを変更する.....	26
予定された会議	
予定された会議に参加する.....	28
Webex ミーティングへの参加.....	29
連絡先	
お気に入り、通話履歴、ディレクトリ.....	31
通話中に [お気に入り(Favorite)] に追加する.....	32
非通話時に [お気に入り(Favorite)] に追加する.....	33
既存のお気に入りの編集.....	34
カメラ	
カメラ設定の表示.....	36
カメラ位置プリセットの追加.....	37
カメラ位置プリセットの編集.....	38
カメラのオンとオフの切り替え.....	39
スピーカートラッキング.....	40
プレゼンタートラッキング.....	41
自分のカメラの制御.....	42
遠端カメラ制御.....	43
自画面の管理.....	44
自画面 PiP のサイズを変更する.....	45
自画面 PiP の移動.....	46
設定	
設定へのアクセス.....	48

目次の項目はすべてハイパーリンクになっています。ハイパーリンクをクリックすると、対応する記事に移動できます。

サイドバーのアイコンをクリックして、章単位で移動することもできます。

注：このユーザーガイドで説明する機能の一部はオプションです。お使いのデバイスには該当しない場合があります。

このガイドでは、次の製品を Touch 10 コントローラで操作する方法について説明します。

MX シリーズ:

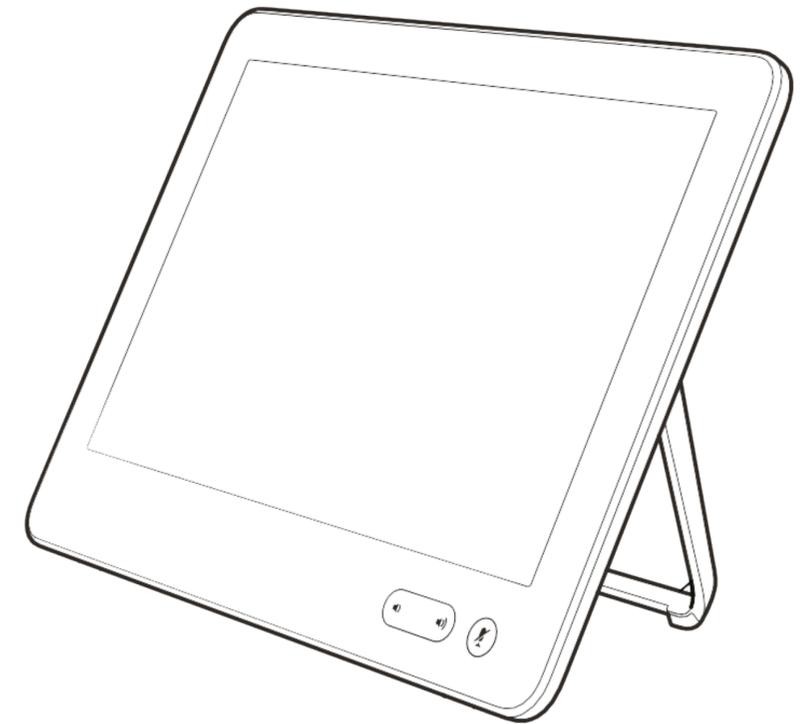
- MX200 G2
- MX300 G2
- MX700
- MX800

SX シリーズ:

- SX10 Quick Set
- SX20 Quick Set
- SX80 コーデック

Room シリーズ:

- Room Kit
- Room Kit Mini
- Room Kit Plus (Codec Plus 搭載)
- Room Kit Pro (Codec Pro 搭載)
- Room 55 および 55 Dual
- Room 70 および Room 70 G2
- Room Panorama



ビデオ会議: 概要

ベストプラクティス

効果的なビデオ会議では、出席者の距離がどれだけ離れていても、対面式の会議を行えます。ビデオ会議であっても、会議であることには変わりありません。通常のマナーや、服装を心がけるようにしてください。

会議室にて

- すべての発表の音声が拾われるように、マイクをテーブルの前方に設置してください。デバイスの正面から 2 m (6.5 フィート) 以上、テーブルの前方の端から 30 cm (1 フィート) 以上離れた平らな面が最適です。
- 指向性マイクはデバイスの反対側に向ける必要があります。
- マイクの前方には、物などを置かないようにしてください。
- マイクは、テーブルに置かれたコンピュータやプロジェクタのファンなどのノイズ源から離してください。これらのノイズ源からの雑音は、リモート参

加者にとって予想以上に大きく聞こえます。

- ドキュメント カメラやホワイトボード カメラを使用する場合は、カメラと会議リーダーとの距離や、カメラと専用コントローラとの距離が縮まるように参加者を配置します。
- ホワイトボードを使用している場合は、専用のホワイトボードカメラだけでなく、メインカメラからもホワイトボードが見えた方が、リモート参加者にとってわかりやすいミーティングになります。テレビ放送では通常、この手法を用いてプレゼンターが実際に同じ部屋にいるように見せています。
- すべてのペリフェラルは、1 人の出席者が手を伸ばして、会議の最中にポイント、ディスプレイ変更、記録などの操作を行える場所に置いてください。
- できるだけ自然な会議環境を演出するために、カメラは受信モニタの上部中央に置いてください (可能な場合)。遠くにいる会議の相手とアイ コンタクトを行えるよう、カメラは、会議出席者に直接向ける必要があります。ビデオデバイスのセルフビュー機能を使用して確認してください。セルフビュー

は、リモートの出席者に表示される映像を、自分のデバイス (発信ビデオ) に表示します。

- コンテンツを共有する場合、通常はデュオ ビデオを活用します。つまり、2 本のビデオ ストリームを使用します。1 本はプレゼンテーション用、もう 1 本はプレゼンター (またはプレゼンター グループ) 用です。小型のデバイスでは、プレゼンテーションとプレゼンターのどちらを表示するかを選択しなければならないことがあります。

その他のヒント

カメラのプリセットを使用する

Cisco Webex Devices では、ズームおよびカメラの向き (パンとチルト) を事前に定義できます。必要であれば、これらを使用し、発表者にズームします。後からズーム アウトすることを忘れないでください。カメラトラッキング機能のあるデバイスでは、この操作は不要です。

スピーカーの音量

オーディオシステムは、モニタ内蔵のスピーカーか Cisco Digital Natural Audio Module を使用します。

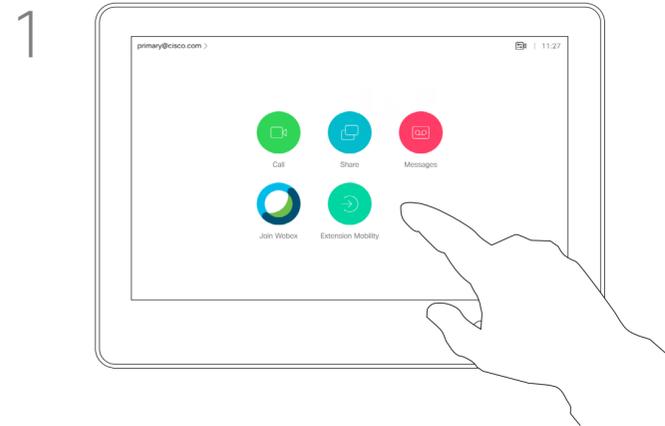
一部のデバイスでは、モニタリモートでモニタの音量を調整することで、デフォルトのボリュームレベルを設定できます。

明るさのコントロール

モニタの明るさや色などの設定を調整するには、モニタのリモート コントロールを使用してください。会議室の条件に合わせて、モニタを調整してください。シスコのモニタはオンスクリーンメニューを備えており、これらは非常に簡単に使用できます。各モニタの設定方法については、該当するユーザ ガイドと管理マニュアルを参照してください。

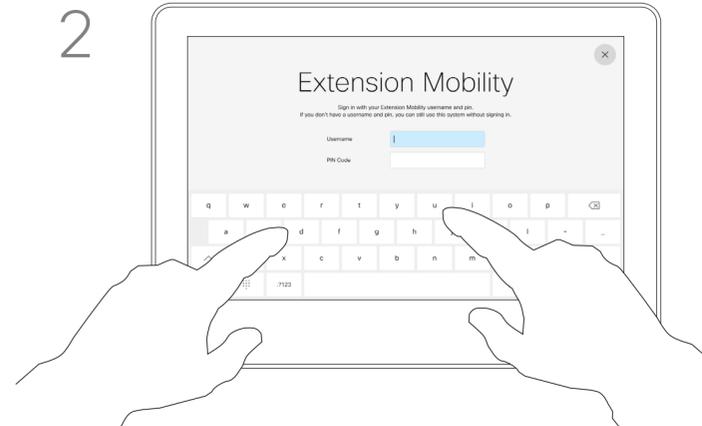
自分のログイン情報でのログオン

エクステンション モビリティについて



エクステンションモビリティ対応デバイスには、自分のログイン情報を使用してデバイスにサインインするための追加のボタンがあります。

[エクステンションモビリティ(Extension Mobility)] ボタンをタップします。



ユーザ名と PIN コードを入力します。



[ログイン(Login)] をタップします(図を参照)。



サインアウトするには、[サインアウト(Sign out)] をタップします。

ミーティングルームや静かな部屋に設置され、CUCM(Cisco Unified Communications Manager)の下で動作するデバイスでは、自分の個人用ログイン情報を使用してビデオデバイスにログインすることができます。

CUCM は、その特定のデバイスにすべての着信コールをルーティングします。

エクステンションモビリティからログアウトすると、[通話履歴(Recents)] の一覧はデバイスからクリアされます。

エクステンション モビリティはホットデスクリングとも呼ばれます。

USB カメラとしての Room Kit Mini の使用

Cisco Webex Room Kit Mini は、USB カメラとしても使用できます。

Room Kit Mini をシスコに登録していない場合は、他の USB カメラとして使用できます。

Room Kit Mini をシスコに登録している場合も USB カメラとして使用できますが、次の点に注意してください。

- ・ Room Kit Mini は、ソフトウェアクライアントがカメラを使い始めたとき、およびケーブルが接続されていないときに応答不可(DND)モードになります。
- ・ これにより、専用のコンピュータが常時 Mini に接続されている場合でも、通常のシスコのコールに Room Kit Mini を使用することができます。

Room Kit Mini を USB カメラとして使用するには、コンピュータと Room Kit Mini の USB-C ソケットを USB ケーブルで接続します。

この構成では、Room Kit Mini のマイクとスピーカーが使用され、優れたサウンド体験が実現されます。

この構成を拡張して外部モニターを含める場合は、通常の方法でコンピュータをモニターに接続します。

カメラコントロールは Room Kit Mini の Touch 10 から完全にアクセス可能です。

その他のデバイス設定も、[応答不可(Do Not Disturb)] を除いてすべてアクセスできます。[応答不可(Do Not Disturb)] は、シスコに登録された Room Kit Mini で無効にすることはできません。

登録時に USB カメラとして使用

サードパーティのクライアントを使用して電話をかける場合、カメラ、マイク、およびスピーカーは OS/アプリケーションのデフォルトに基づいて選択されます。これらの設定は上書きできます。

カメラは Touch 10 から制御されます。

プライバシーを維持するため、カメラがアクティブになっているときはいつでもカメラのライトインジケータが点灯します。

他のすべての機能はサードパーティのクライアントによって制御されます。

未登録時に USB カメラとして使用

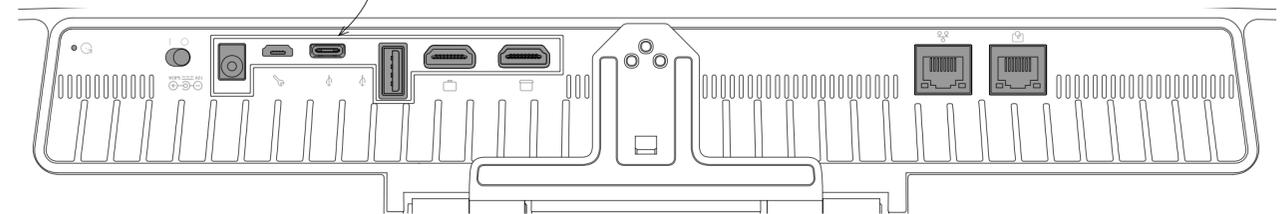
シスコのビデオデバイスを初めて起動すると、セットアップウィザードが表示されます。

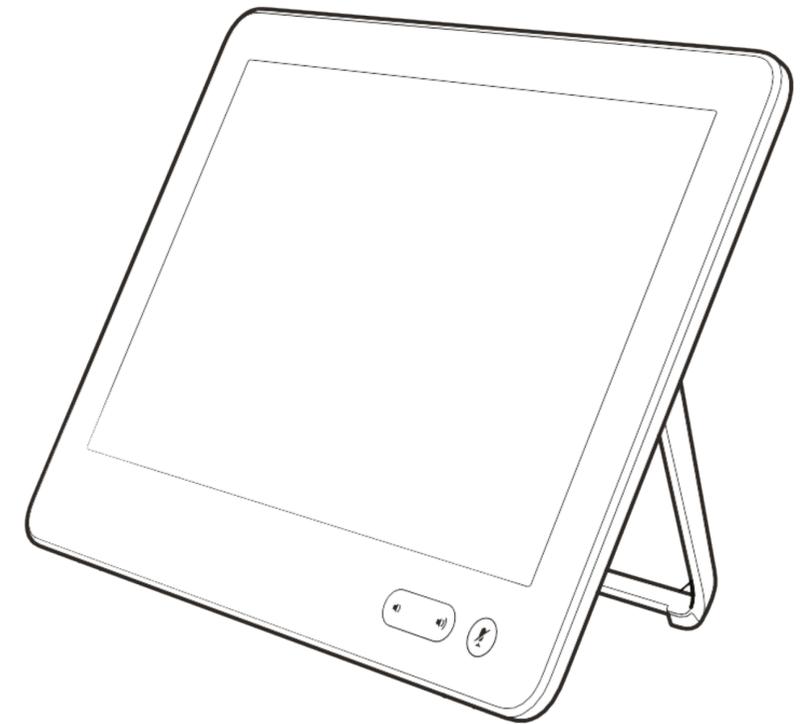
このウィザードでは、シスコサービスへの登録方法(クラウドまたはオンプレミス)を指定できます。Room Kit Mini を USB デバイスとしてのみ使用する場合は、このウィザードをスキップできます。

登録方法を示す詳細な手順が画面に表示されます。

後で Room Kit Mini をシスコに登録する場合は、[設定(Settings)] に移動し、[デバイスの有効化(Device Activation)] を選択します。

コンピュータを USB-C ソケットに接続します

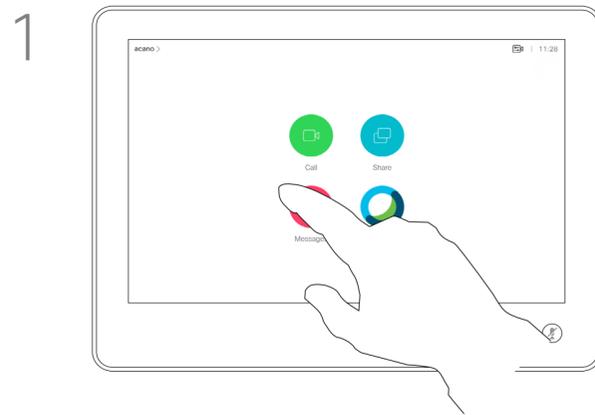




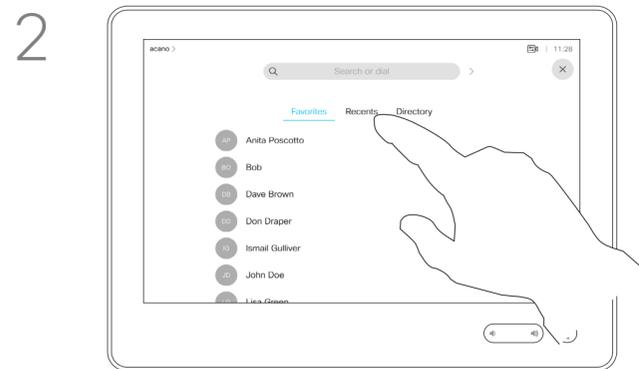
ビデオ コール

ビデオ コール 連絡先リストからのコールの発信

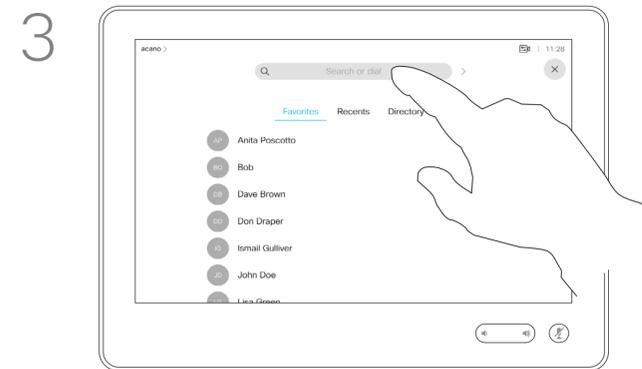
連絡先のリストについて



1 [発信(Call)] ボタンをタップします。



2 特定のリスト([お気に入り(Favorites)], [ディレクトリ(Directory)], または [発着信履歴(Recents)]) で通話相手を検索するには、そのリストをタップし、下へスクロールしてエントリを探します。



3 または、[検索またはダイヤル(Search or Dial)] フィールドをタップします。仮想キーボードが表示され、入力した内容がすべてのリストで検索されます。

連絡先リストは、次の 3 つの部分で構成されています。

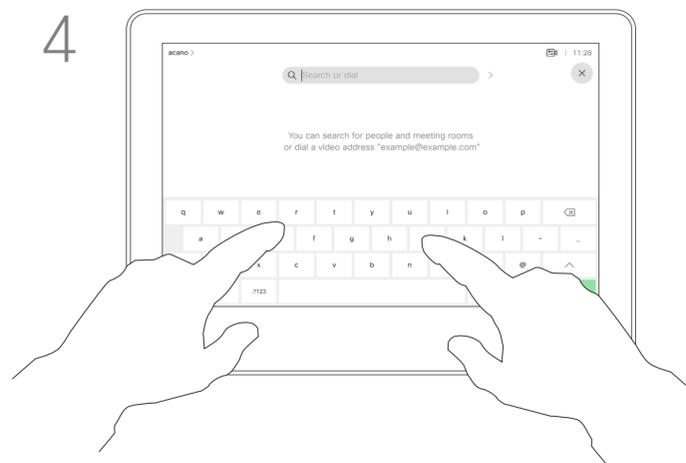
お気に入りこれらの連絡先はユーザー自身が追加したものです。通常、頻繁に通話する相手や、ときどきすばやく簡単にアクセスする必要がある連絡先を登録します。お気に入りの連絡先にはアスタリスクが表示されます。

[ディレクトリ(Directory)] は通常、ビデオサポートチームによってデバイスにインストールされる社内ディレクトリです。

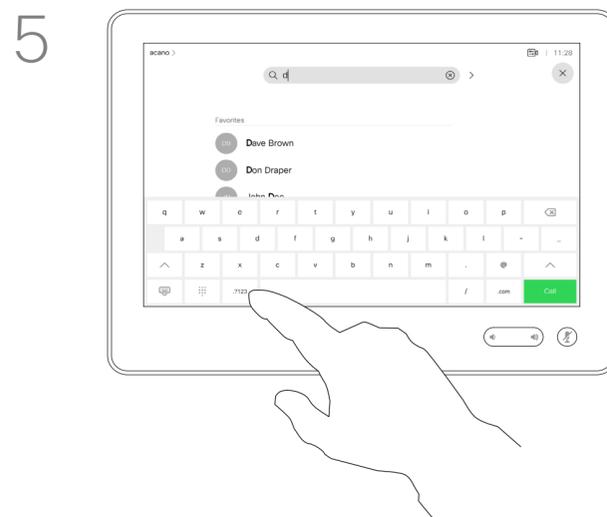
[通話履歴(Recents)] は、発信、受信、不在着信のリストです。

次のオプションが適用されます。

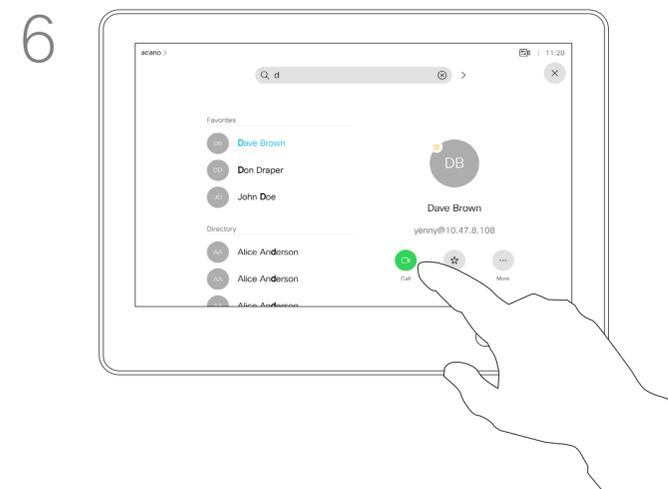
- ・ 名前、番号、または IP アドレスを入力すると、デバイスが自動的にすべてのリストを検索します。
- ・ [お気に入り (Favorites)] リストでは、エントリを追加したり、発信前にエントリの内容を編集したり、コールレートを変更したりできます。また、[通話履歴 (Recents)] からエントリを削除することもできます。



4 名前、番号、または IP アドレスを入力します。入力するたびに一致する結果が表示されます。IP アドレスで使用するドットを入力するには、* を長押しします。



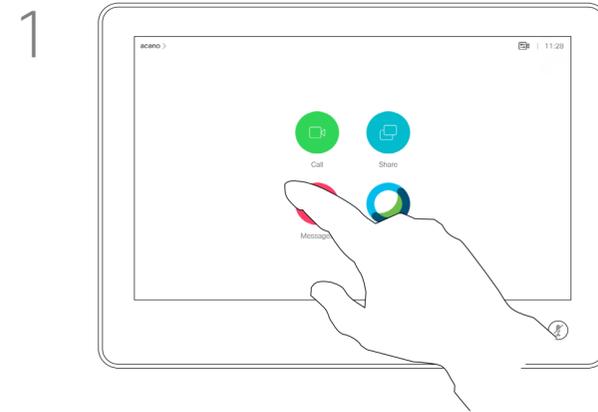
5 特殊文字を含む拡張数字モードを利用できます。英数字モードと拡張数字モードを切り替えるには、キーボードの左下隅にあるキーをタップします。



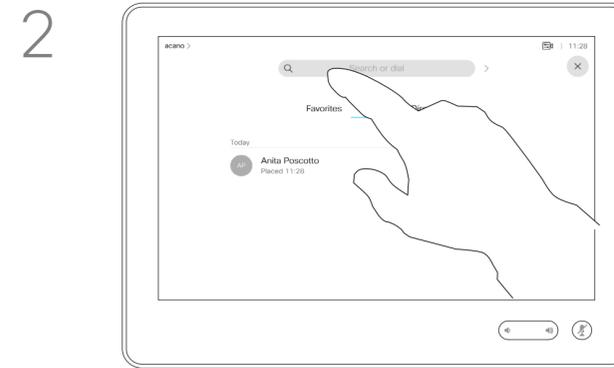
6 通話先が見つかったら、名前をタップし、緑色の [発信(Call)] ボタンをタップします。

ビデオ コール 発信前の連絡先の編集

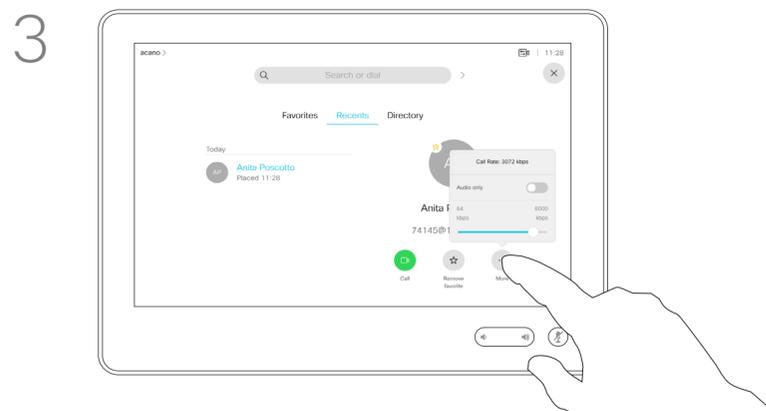
エントリの編集について



1 [発信(Call)] ボタンをタップします。



2 前のページに示すように、[検索またはダイヤル(Search or Dial)] フィールドをタップするか、いずれかのリストをスクロールします。



3 見つけたエントリをタップすると、[発信(Call)] メニューが表示されます。図のように、[発信(Call)] メニューで [編集して通話(Edit and Call)] をタップします。



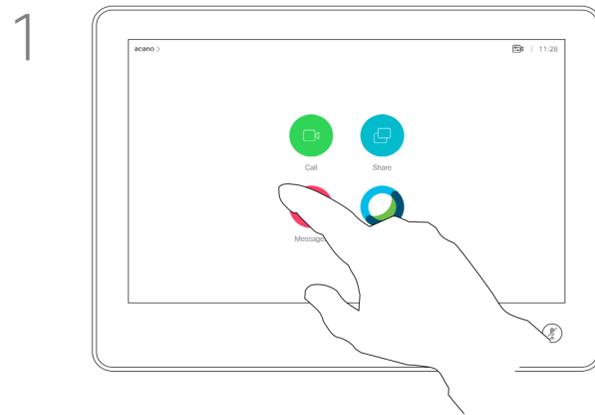
4 必要に応じて編集し、緑色の [発信(Call)] ボタンをタップして発信します。

連絡先リストの入力方法については、前のページを参照してください。

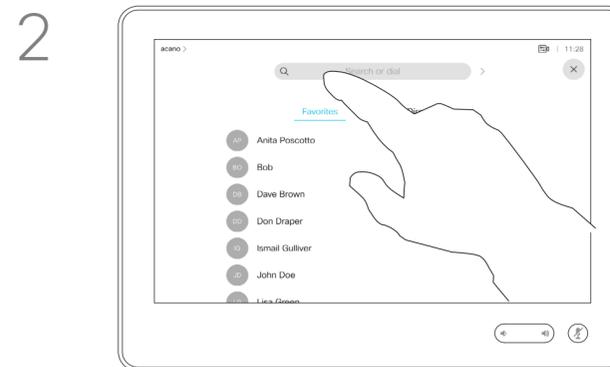
発信する前に、[連絡先(Contact)] リストのいずれかのエントリを編集する必要があるかもしれません。たとえば、正しく発信するために、プレフィックスやサフィックスを追加するか、またはエントリ自体を変更する必要があるかもしれません。

名前、電話番号、または IP アドレスを使用したコールの発信

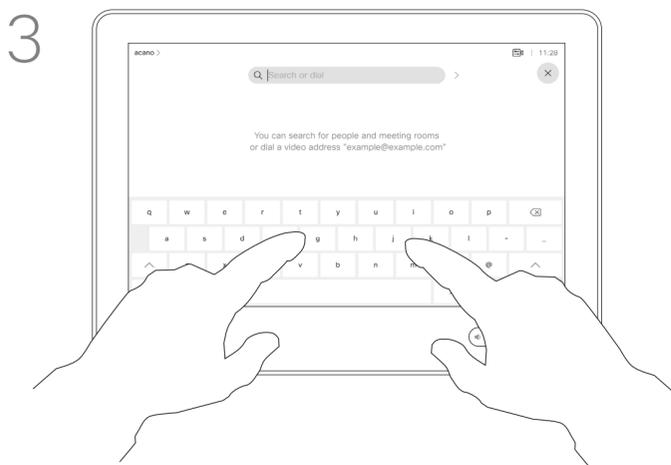
発信について



1 [発信(Call)] ボタンをタップします。



2 [検索またはダイヤル(Search or Dial)] フィールドをタップします。これにより、キーボードが開きます



3 名前、番号、またはアドレスを入力します。入力に合わせて、一致する可能性のある候補が表示されます。正確に一致するものがリストに表示されたら、タップします。表示されない場合は入力を続けます。



4 通話先を入力または特定できたら、名前をタップし、緑色の [発信(Call)] ボタンをタップして発信します。

連絡先のリストに載っていない相手に発信するには、タッチパッドの仮想キーボードを使用して、名前、アドレス、または番号を入力します。

これまでの発信先と着信元は、すべて [通話履歴(Recents)] リストに表示されます。そこから任意のエントリを [お気に入り(Favorites)] リストに転送できます。これについては、「連絡先」セクションで説明しています。

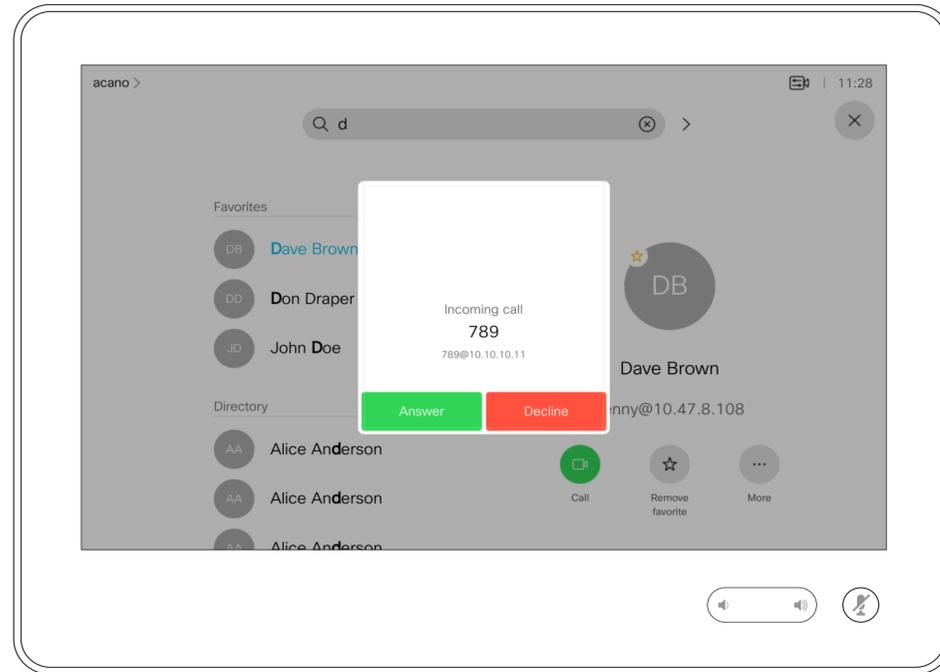
通話中、内線にアクセスしたり暗証番号を提供したりするために、数字の入力が必要になることがあります。

この操作に必要なキーパッドを呼び出すには、[タッチトーン(Touch Tones)] をタップします(このボタンは、発信するとすぐに表示されます)。

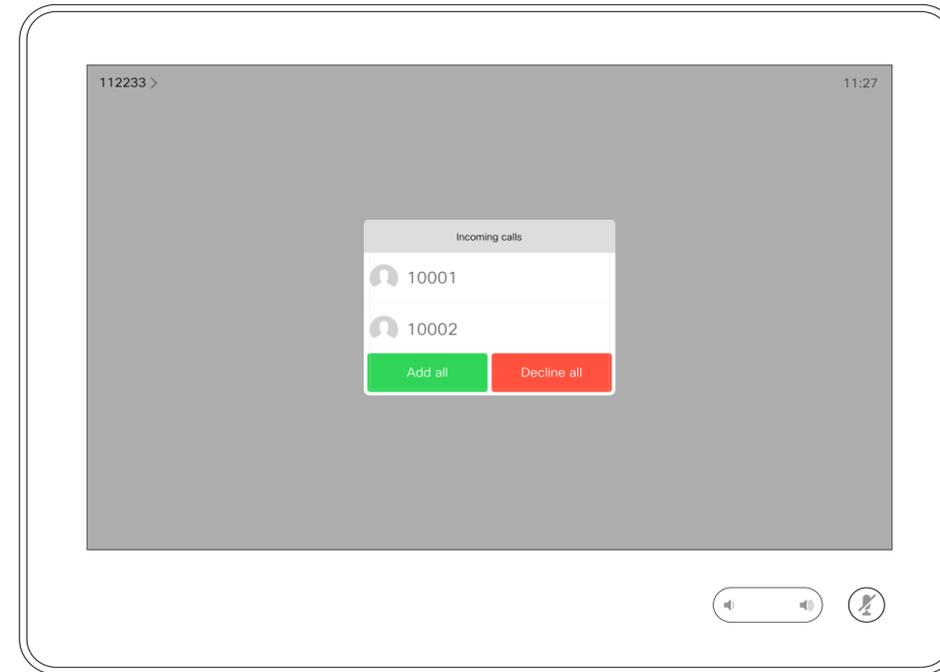
[発信履歴(Recents)] をクリアできるのは Web インターフェイスからのみであることを注意してください。

ビデオ コール 着信 – 通話中でない場合

着信があった場合



着信コールは応答または拒否できます。



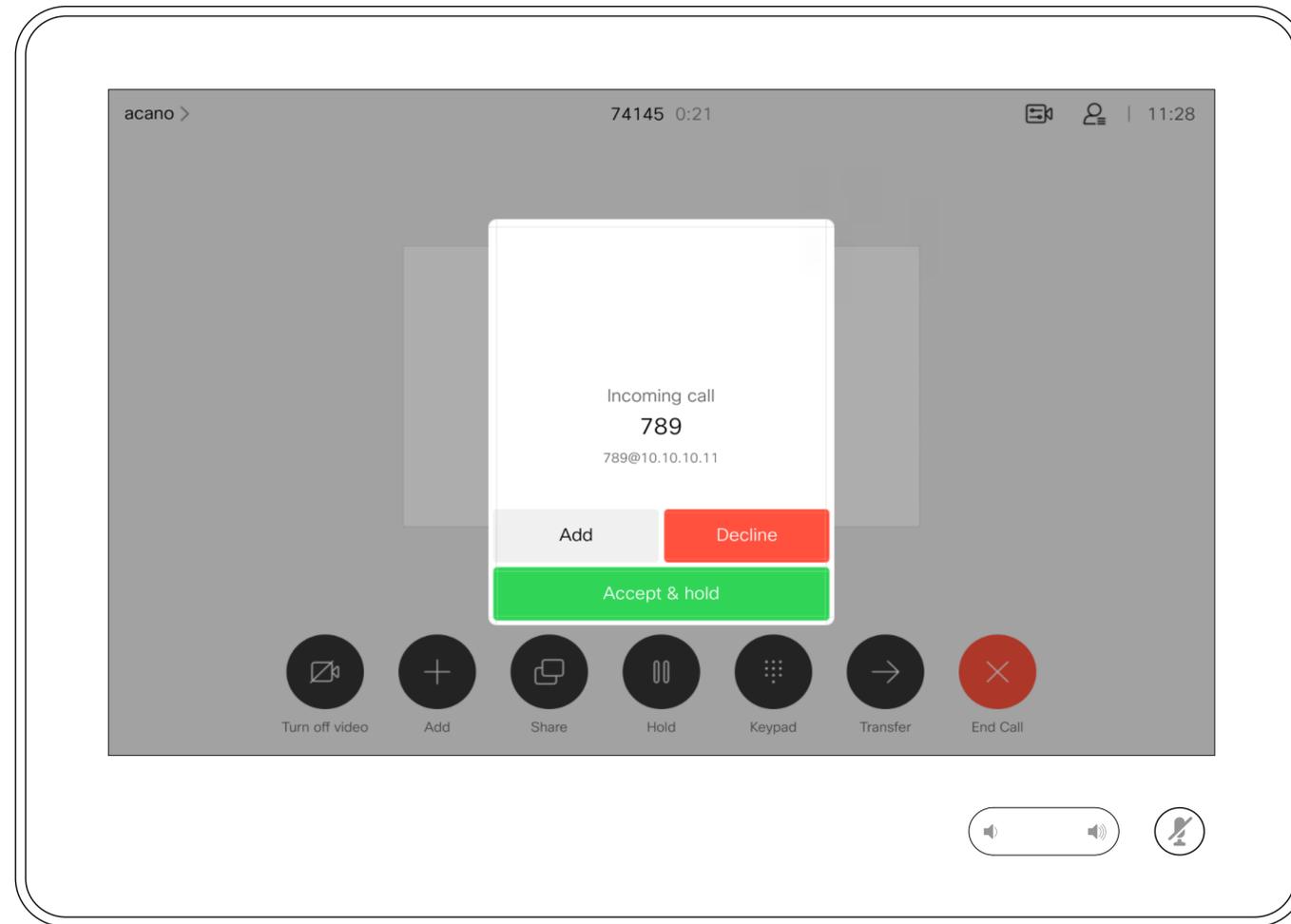
デバイスで複数の着信コールを受信できる場合は、すべてを追加するか、すべてを拒否するかを選択できます。

- ・ 着信があった場合は、そのコールを受け入れるか、拒否するか、無視することができます。
- ・ コールを拒否すると、話し中であるという情報が発信者に送られます。
- ・ コールを無視すると、発信者は相手が存在である（相手がコールに回答しなかった）と認識します。
- ・ ビデオインフラストラクチャによっては、複数の着信通話を受信できます。必要に応じて、貴社のビデオサポートチームにお問い合わせください。

ビデオ コール
通話中に別の通話に応答する

着信があった場合

すでに通話中の場合でも、デバイスで別の着信コールを受け入れる機能が有効になっていれば、着信に応答できます。



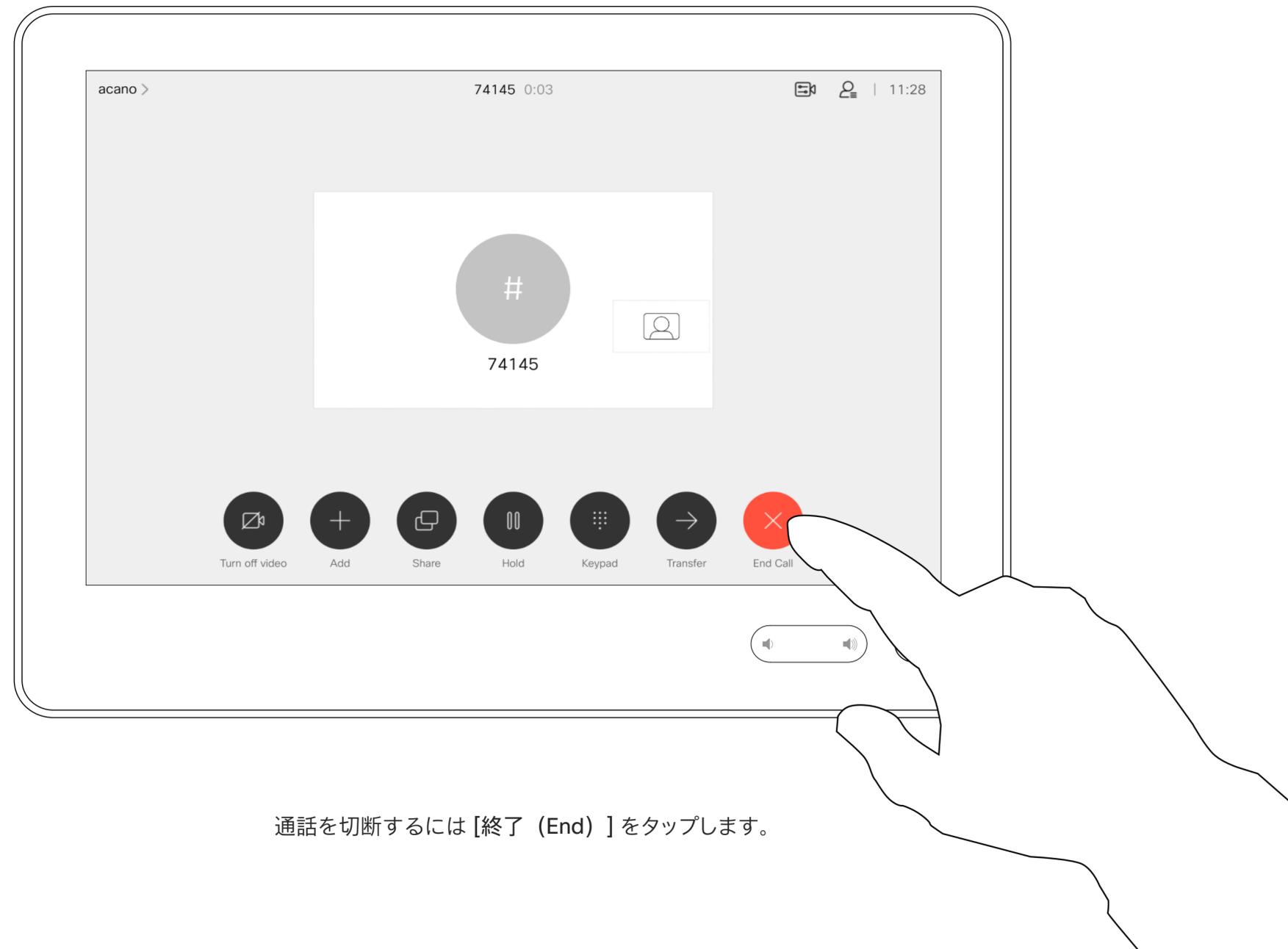
ビデオ コール 通話から自分を切断する

切断について

通話中に [終了(End)] をタップすると、通話が切断されます。コールの参加者が 2 人の場合は、これでコールが終了します。

複数の参加者がいる会議コールでは、[終了(End)] をタップすると、自分が通常の参加者である場合は自分の参加だけが終了します。

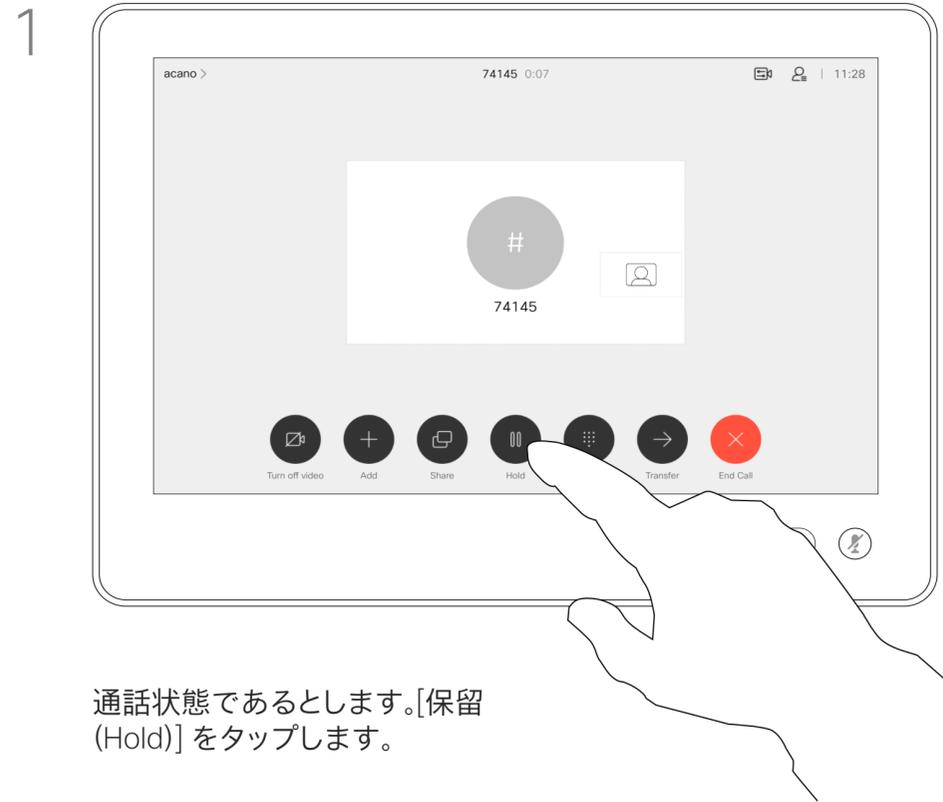
ただし、自分がそのような会議のホストである場合、[終了(End)] をタップすると、会議のタイプによっては会議が終了します。



通話を切断するには [終了 (End)] をタップします。

通話を保留にする/保留中の通話を再開する

保留について

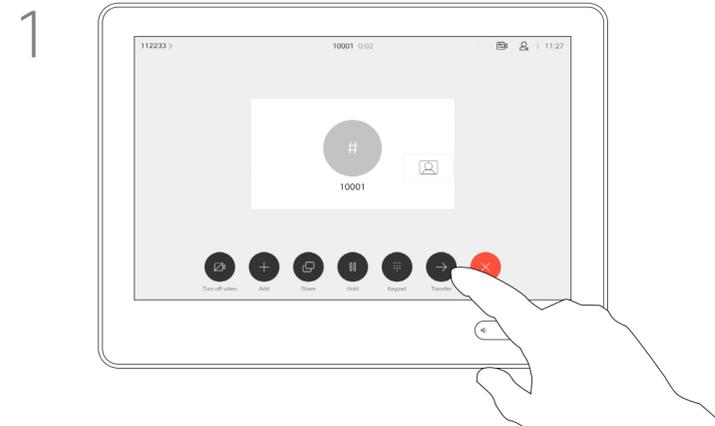


通常、相手を保留にする操作は、相手を他の人に転送する場合の最初のステップとして行うものですが、他の人の話を聞く必要がある場合や、ビデオ送信の停止も兼ねたミュートの代わりとして使用することもできます。

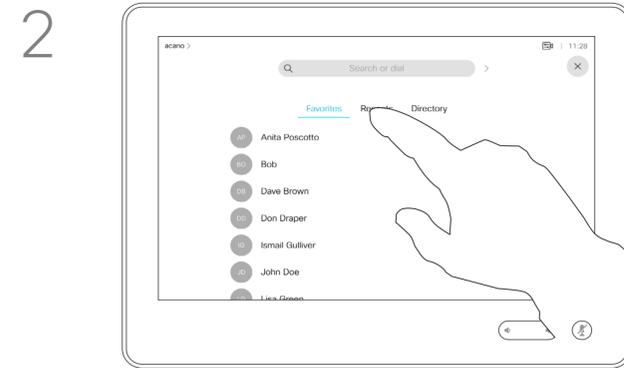
ビデオ コール 対応中の通話を転送する

転送について

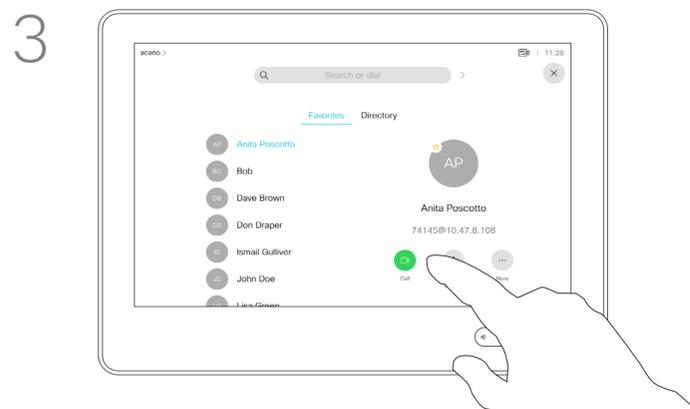
対応中の通話を別の人に転送することができます。転送時には常に相談が可能です。つまり、実際に転送する前に転送先の人と話することができます。



1 [転送 (Transfer)] ボタンをタップします。現在の通話が保留になります。



2 いつもと同じ方法で、発信先を探します。

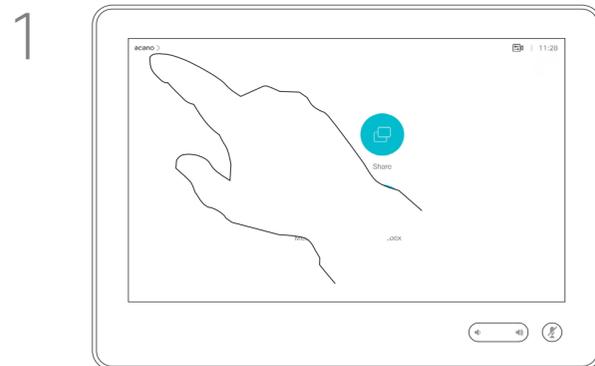


3 緑色の [発信 (Call)] ボタンをタップします。発信先の相手と話して、転送してよいかどうかを確認します。転送される側は、保留のままになっています。

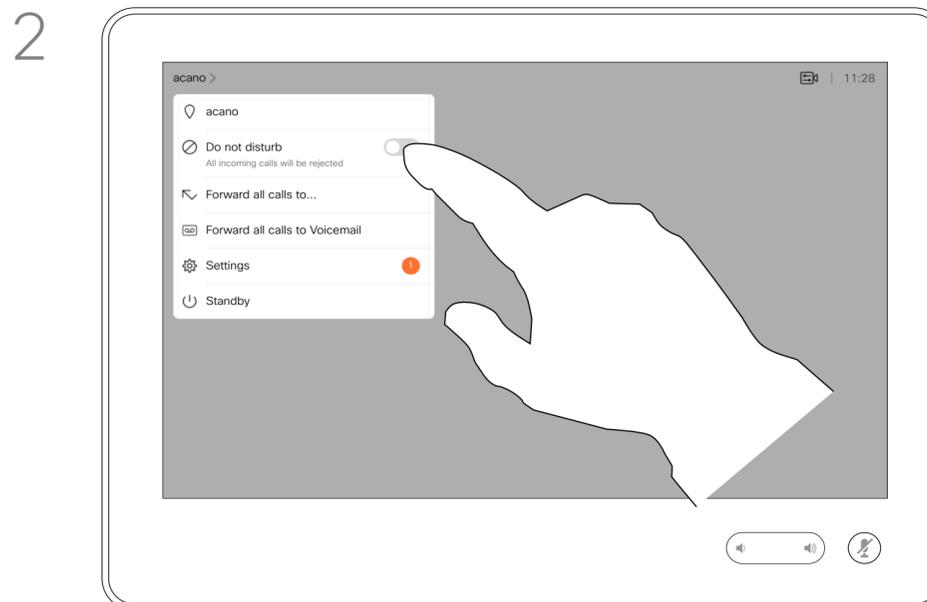


4 [転送完了(Complete Transfer)] をタップします。

ビデオ コール 応答不可の有効化



図のように左上隅をタップします。



図のように [応答不可(Do not Disturb)] をタップします。この機能を非アクティブにするには、同じ手順を繰り返します。

応答不可について

着信コールに応答しないようにデバイスを設定することができます。ただし、こちらからは必要時にいつでも発信できます。

この機能には、ビデオサポートチームによってタイムアウトが設定されている場合があります。タイムアウト後は、デバイスが通常どおり着信コールに応答するようになります。デフォルトのタイムアウト設定は 60 分です。

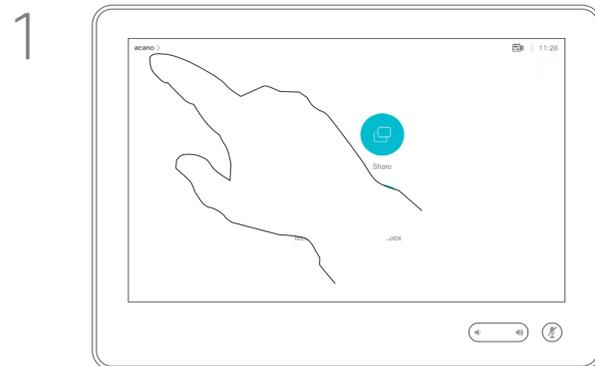
ビデオサポートチームによって、表示されるメニューやオプションへのアクセスが無効にされている場合があります。

Room Kit Mini を USB カメラとして使用する。Room Kit Mini は、登録済みでも PC やサードパーティのビデオクライアントで USB カメラとして使用できます。コールの重複による競合を避けるために、デバイスは自動的に応答不可モードになります。この状況で応答不可モードをオフにすることはできません。

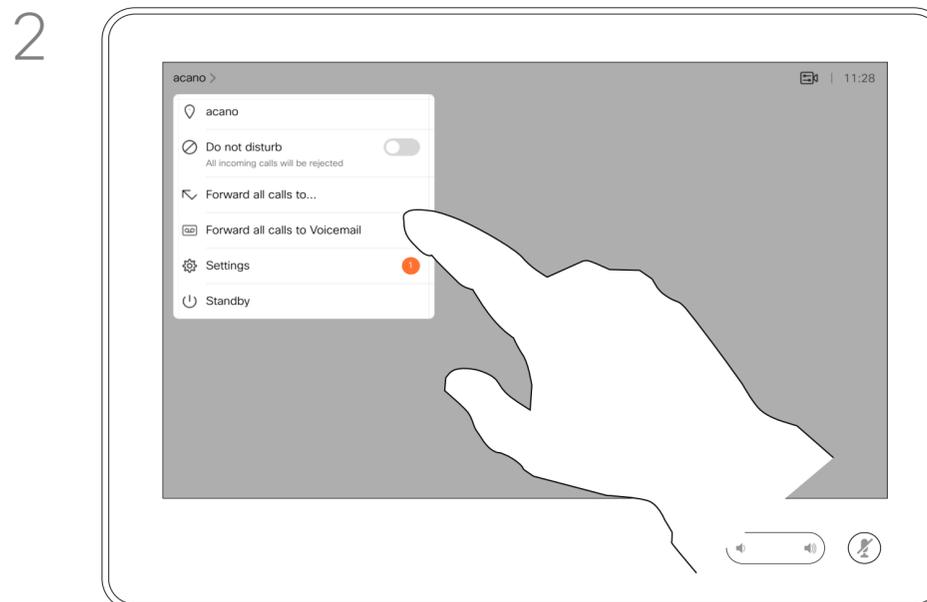
Room Kit Mini を未登録デバイスとして使用する場合は、コールの重複が発生しないため、上記は適用されません。

ビデオ コール すべての通話の自動転送

通話の転送について



図のように左上隅をタップします。



指定した受信者、または自分のボイスメールに、すべての通話を転送することができます。

ビデオサポートチームによって、すべての着信コールを転送するオプションが有効にされている場合があります。ボイスメールに転送するか、受信者を指定して転送するかを選択できます。

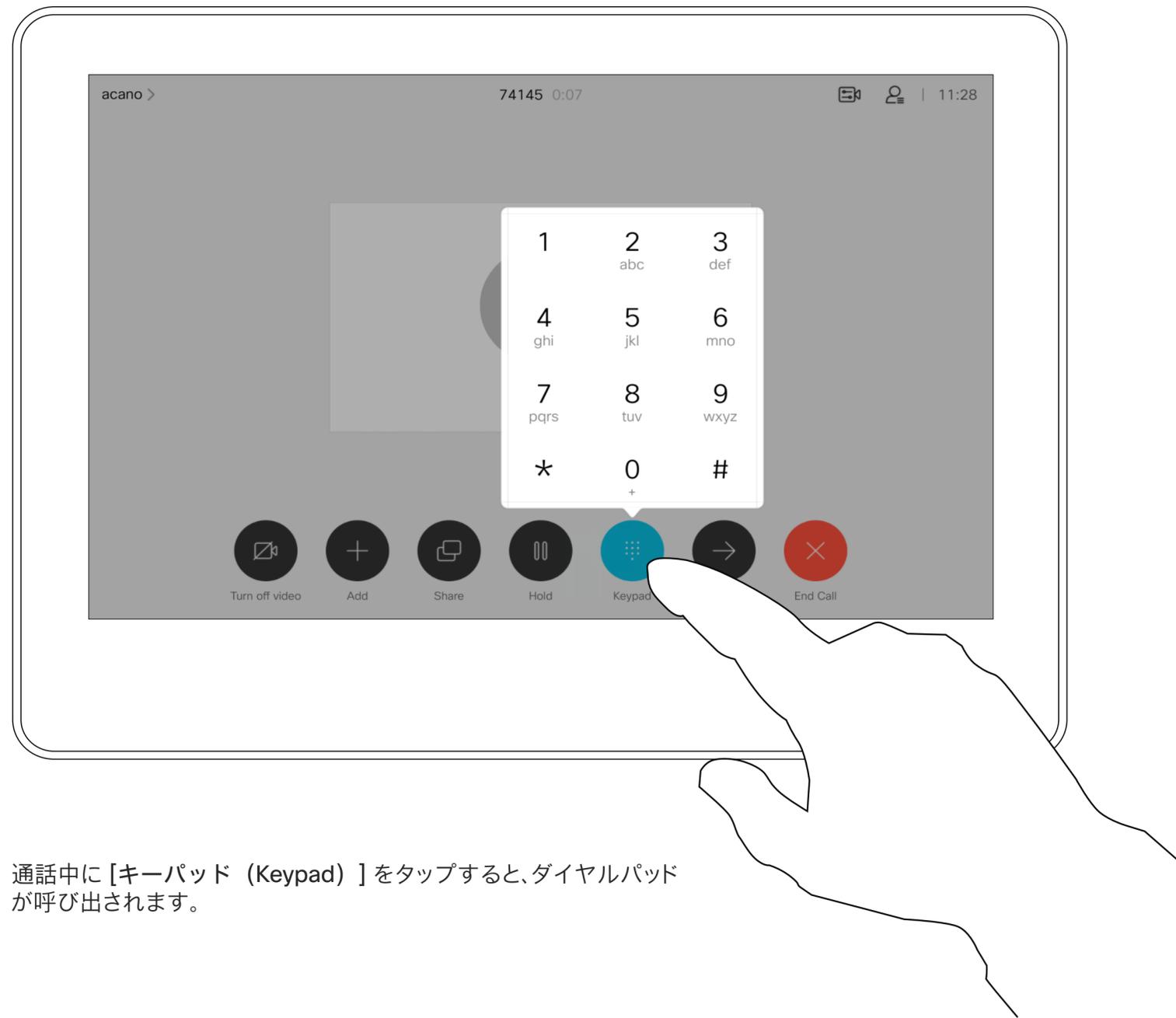
[すべてのコールを転送(Forward all calls)] をタップすると、通常の [発信(Call)] メニューが表示され、受信者を指定できます。

ビデオサポートチームによって、表示されるメニューやオプションへのアクセスが無効にされている場合があります。

ビデオ コール
通話中にキーパッドを表示する

通話中のキーパッドの使用

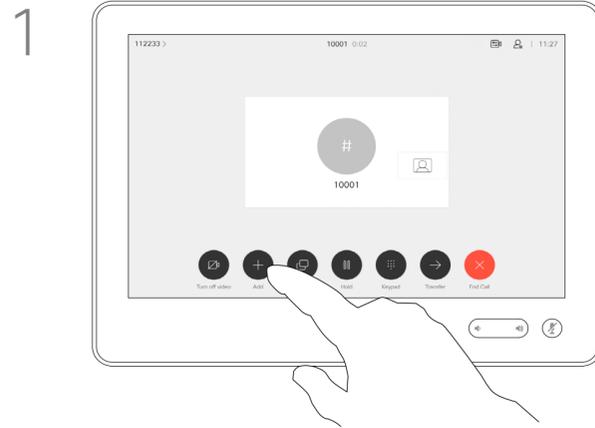
通話中、内線にかけるために、または何か(暗証番号など)を入力するためにダイヤル操作が要求されることがあります。これを送信するには、タッチスクリーンにキーパッドを呼び出す必要があります。



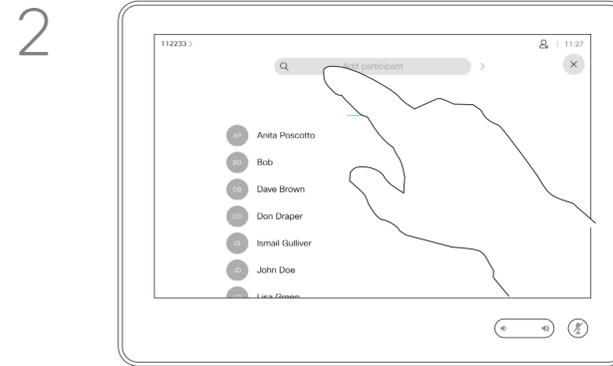
通話中に [キーパッド (Keypad)] をタップすると、ダイヤルパッドが呼び出されます。

ビデオ コール 既存のコールへの参加者の追加

ビデオ会議について



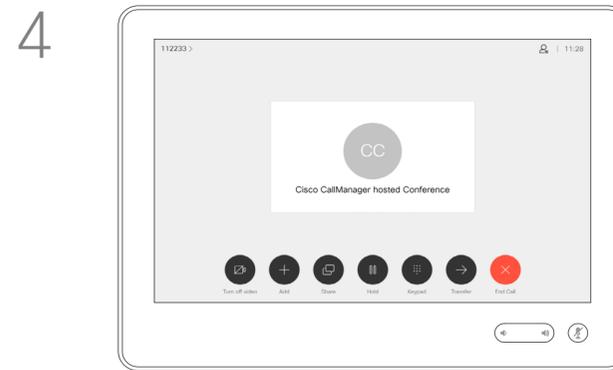
すでに通話状態であるとして。この通話は、自分または他の誰か(通話相手)が発信しています。[追加 (Add)] をタップします。



通常の方法で、発信先を探します。



通常の方法で発信します。



この新しい通話が既存の通話に追加され、会議が確立されます。

この手順を繰り返すことで、ビデオ インフラストラクチャが対応している人数まで参加者を増やすことができます。

ネットワークには、複数の参加者とビデオ会議を開始する機能が装備されている場合があります。

ビデオデバイスでサポートされる参加者の最大人数は、デバイスの設定とビデオのインフラストラクチャによって異なります。これを確認するには、ビデオ サポート チームへお問い合わせください。

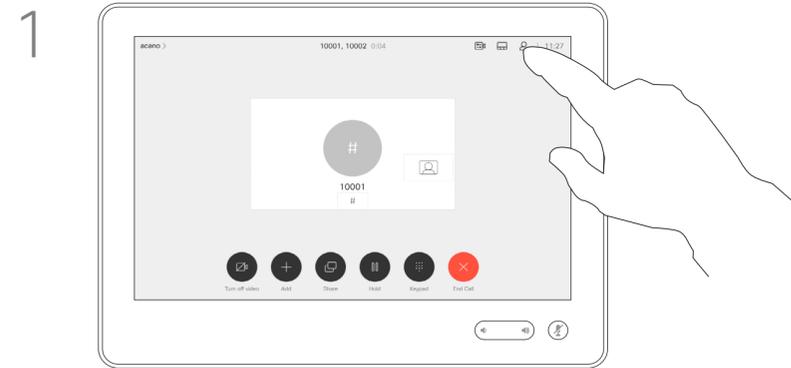
ビデオ会議を開始する場合は、参加者に一人ずつコールする必要があります。

ビデオ コール 会議から参加者を切断する

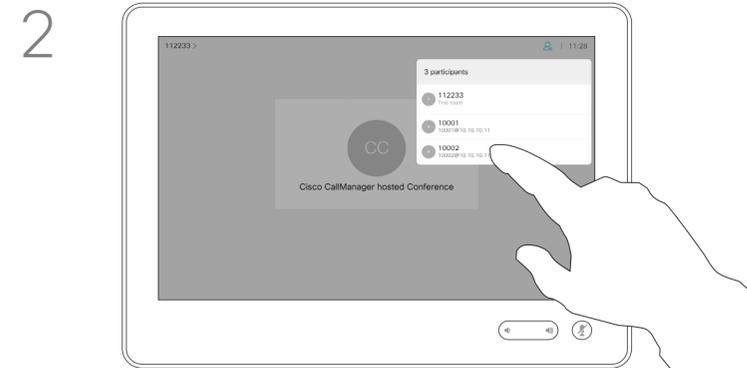
ビデオ会議について

デバイスからビデオ会議を実行する機能はオプションであり、デバイスによっては使用できない場合があります。

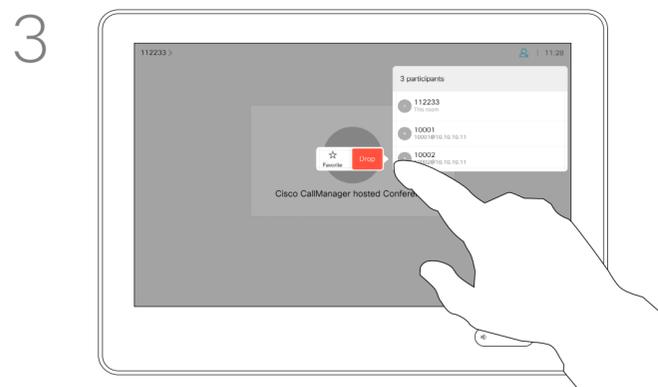
会議から他の参加者を切断するには、会議のホストである必要があります。



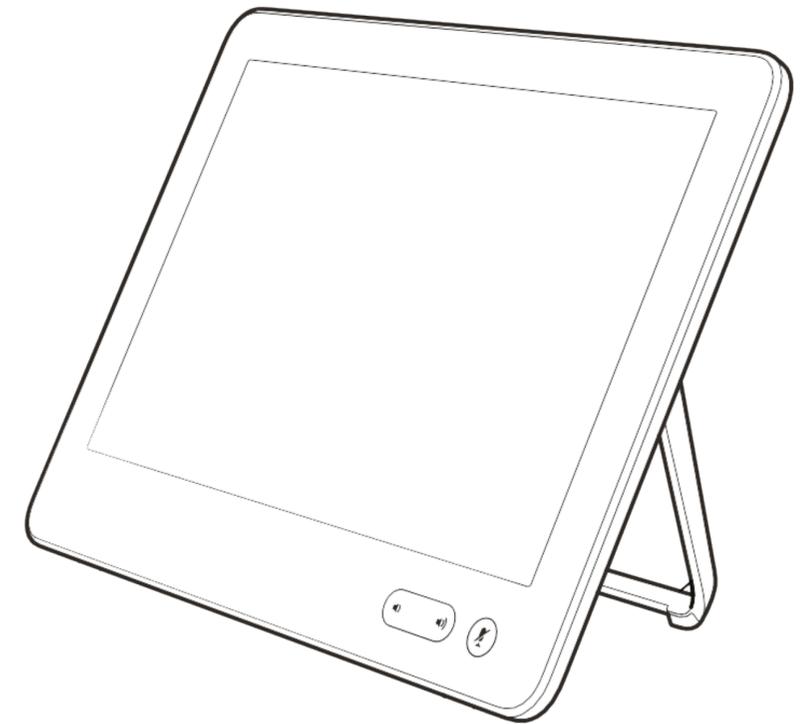
通話中に、図のように、右上隅の参加者アイコンをタップして、参加者リストを呼び出します。



会議から切断する参加者をタップします。



[ドロップ (Drop)] をタップします。



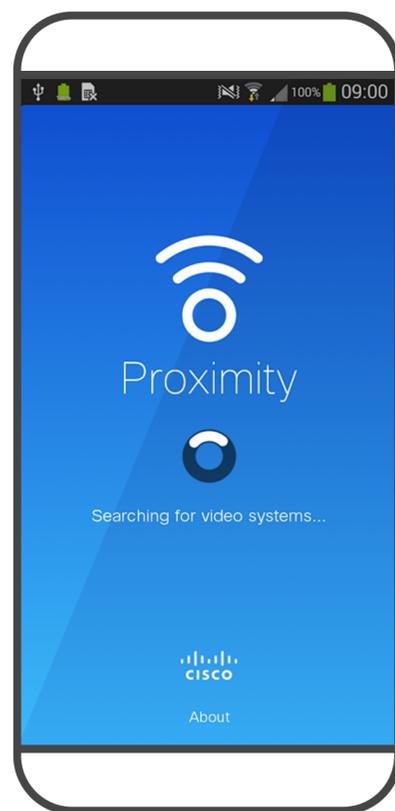
Intelligent Proximity

Cisco Proximity の超音波信号

シスコのビデオデバイスは、プロキシミティ機能の一部として超音波を発します。業務用または商用アプリケーション、家電製品など、ほとんどの人は毎日さまざまな環境で、程度の差はあれ超音波にさらされています。

人によっては空気中を伝達する超音波によって何らかの影響を感じる場合もありますが、75 dB 未満の音圧レベルで影響が生じることはほとんどありません。超音波の制限に関するガイドラインは国によって大きく異なります。Cisco 近接信号が出力される20 kHzあたりの周波数帯で検出される 75 dBの音圧レベルは、現在の制限における最小値となっています。

これについては、カナダでの健康ガイドラインであるhttp://www.hc-sc.gc.ca/ewh-semt/pubs/radiation/safety-code_24-securite/index-eng.php#a2.2.2をご参照ください。



120 dB未満の音圧レベルでは永続的または一時的な難聴はどちらも発生していないと、このガイドラインでは述べられています。

グループで使用するスピーカー搭載型のシスコのビデオデバイスでは、スピーカーから 50cm 以上の距離で、超音波の音圧レベルが 75 dB 未満になっています。

実際の利用ではほとんどの場合、使用者の耳に届く音圧レベルはこれら最大レベルよりはるかに低くなります。これは、スピーカーの指向性や距離による減衰に加え、一般的な部屋では高周波の高域成分が吸収されるためです。そのレベルは、会議の空間における一般的なバックグラウンドノイズ/環境雑音レベルから、いわゆる通常の会話レベルまでの範囲となります。

したがって継続的に近接信号を受けても、安全であると考えられます。その近接信号を知覚し、影響を受ける人はほとんどいません。しかし、高周波数に対して鋭敏な聴覚を持っている人も若干おり、スピーカーの目の前または近くで聞きとれるケースもあります。

犬のような動物は聴覚の周波数の範囲が非常に広いので、近接信号を聞きとれます。

しかし、近接信号の影響は音圧レベルに左右されません。また、犬が聞きとる音圧レベルの範囲も人間と比べて顕著な差があるわけではありません。20 kHzでの犬の聴覚しきい値は、0 ~ 10 dB程度になります。これは、人間の耳が最も敏感となる周波数範囲におけるしきい値と同じ値です。

近接信号が犬にもたらす影響について、Ciscoではテストや認定などを行っていません。制限レベルの存在により、近接信号がはっきりと聞き取れる状況は、犬にとって煩わしいものにならないと考えられるためです。

オフィスや会議室での、通常のバックグラウンドノイズや通常の会話と同等のレベルの超音波は、犬に影響を与えます。この機能を持つ当社の製品において、動物が近接信号によって悩まされているという報告は何年間もありません。

ただし、超音波を利用して犬を撃退する機器が実際に存在しているので、犬に及ぼす超音波の影響があるのではないかと考えるのはもっともなことです。通常このような機器は、犬に対して不快な超音波を出すものであり、悪影響を及ぼすものではありません。シスコは犬撃退用途の機器の設計については専門外です。しかし、その手の機器の仕様分析では、概して音圧レベルが 100 dB以上であることがわかっています。

シスコのビデオコーデックをサードパーティ製スピーカーデバイスと組み合わせて使用するソリューションの場合、シスコ側で超音波の音圧レベルを制御することはできません。所定のスピーカー出力音圧レベルと周波数特性では、ほとんどの場合75 dBの制限を超えない音圧に収まります。しかし、過剰な信号の外部増幅を行う、またはスピーカーシステムが高周波を強調するものであった場合、この制限を超えた音圧が出力される可能性があります。

プロキシミティについて

インテリジェントプロキシミティ機能を使用すると、コンピュータからビデオデバイスにワイヤレスでコンテンツを共有できます。スマートフォンとタブレットでは、画面で共有コンテンツを直接表示することもできます。

自分のスマートフォン、タブレット、PC、または MAC を使用して、ビデオデバイスのコールを制御することもできます。

次のことを確認します。

App Store または Google Play から、Cisco Intelligent Proximity アプリケーション (無料) をダウンロードする必要があります。

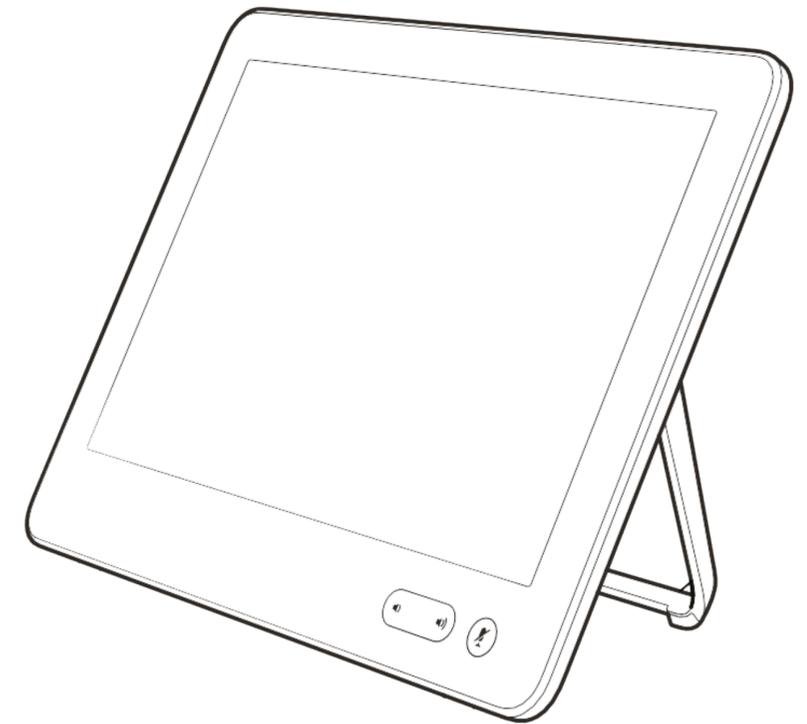
Windows または OS X を使用している場合は、<https://proximity.cisco.com/> [英語] にアクセスしてください。

ビデオサポートチームは、すべての機能を有効にしている場合も、無効にしている場合も、一部の機能だけを有効にしている場合もあります。

インテリジェントプロキシミティでは、ユーザとの接続に超音波を使用します (左側より詳細をご覧ください)。パソコン、スマートフォン、タブレットのマイクをふさがないようにしてください。

Intelligent Proximity は、会議室の扉が閉じているときに部屋の外で動作しないように設計されています。この機能を使用するには、ビデオ エンドポイントの近くにいる必要があります。

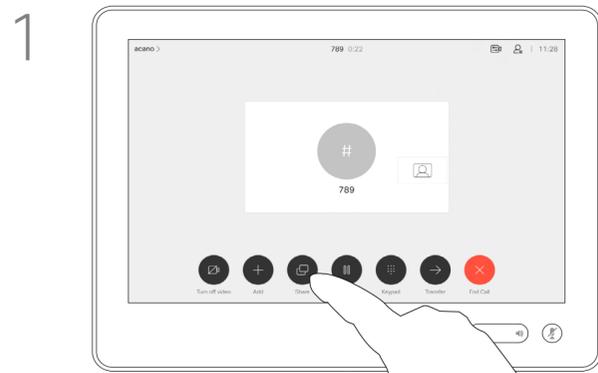
プライバシーの保護が必要な場合は、常に会議室の扉を閉めて、隣室に音が漏れないように配慮してください。



コンテンツ共有

コンテンツ共有 通話でのコンテンツ共有

コンテンツ シェアリングについて

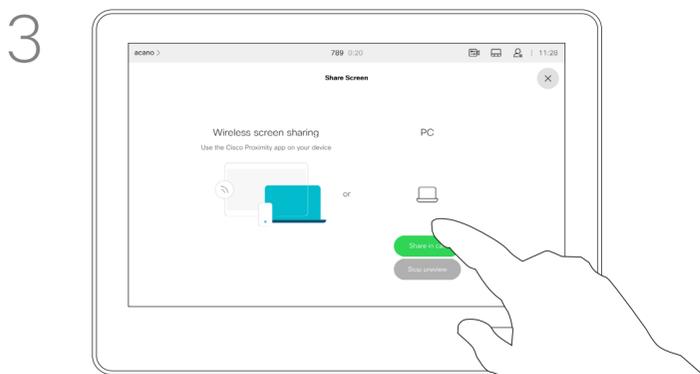


1 ソースとデバイスを適切なケーブルで接続し、スイッチがオンになっていることを確認して、**[共有 (Share)]** をタップします。



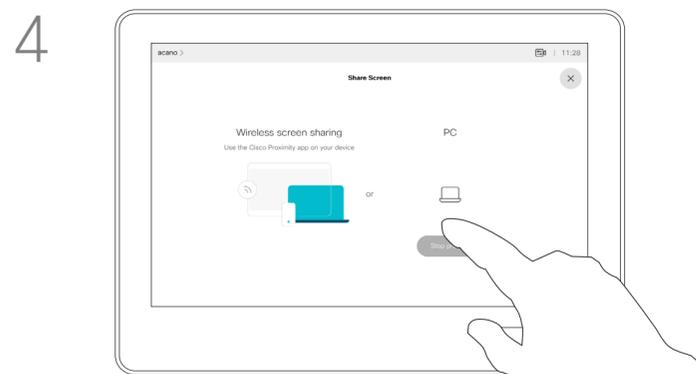
2 **[プレビュー (Local preview)]** をタップすると、共有するコンテンツを自分のデバイスだけで確認できます。これはリモート参加者とは共有されません。

前の画面に戻るには、図のように右上隅の [X] をタップします。



3 プレビューを中止するには、**[プレビューを中止 (Stop preview)]** をタップします。

リモート参加者とコンテンツを共有するには、**[通話で共有 (Share in call)]** をタップします。



4 リモート参加者とのコンテンツ共有を停止するには、**[共有を停止 (Stop Sharing)]** をタップします。

ビデオデバイスは、ビデオコールでプレゼンテーションを表示する機能をサポートしています。

ソースデバイスでインテリジェントプロキシ機能が有効になっている場合は、デバイスをビデオデバイスとペアリングすると、コンテンツをワイヤレスで共有できます。

プレゼンテーション中に画面のレイアウトを変更できます。詳細については、次のページを参照してください。

注：ビデオデバイスの設定によっては、ビデオ入力コネクタの1つが HDCP で保護されたコンテンツを共有し、Google ChromeCast、AppleTV、HD TV デコーダなどを通じてビデオを視聴できるようになっている場合があります。

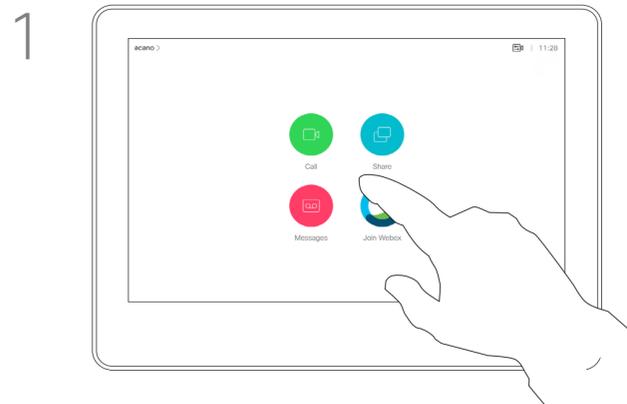
この機能は、非通話時のみ利用可能です。

コール中にこの特定のビデオコネクタからコンテンツを共有しようとしても、コンテンツの共有は行われません。代わりに、通常はコンテンツ共有に割り当てられる画面の一部が、HDCP 保護を維持するために黒くなります。

この動作は、コンテンツが HDCP で保護されているかどうかにかかわらず、コール中にこの入力コネクタを使用して共有しようとしたすべてのコンテンツに適用されます。

コンテンツ共有 コール外でのコンテンツ共有

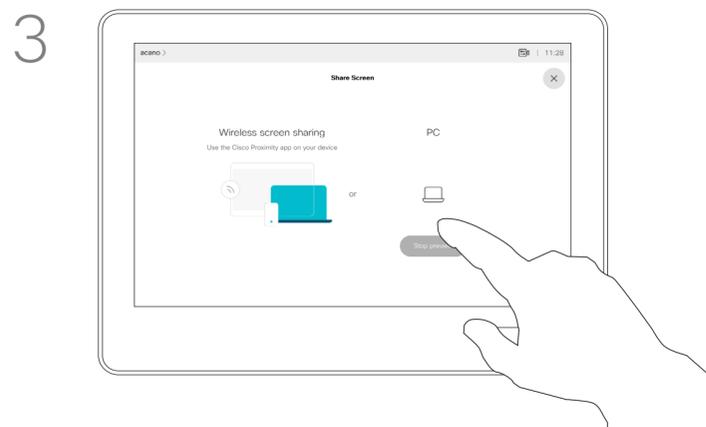
ローカル コンテンツの共有



ソースデバイスとビデオデバイスを適切なケーブルで接続し、スイッチがオンになっていることを確認して、[共有(Share)] をタップします。



自分のデバイスの画面を表示するには、[共有(Share)] をタップします。
前の画面に戻るには、図のように右上隅の [X] をタップします。



セッションを終了するには、[共有を停止(Stop Sharing)] をタップします。

ローカルミーティングでデバイスを使用して、非通話時にコンテンツを表示して共有することもできます。

ソースデバイスでインテリジェントプロキシミティが有効になっている場合は、デバイスでプロキシミティをオンにするだけです。ソースデバイスをビデオデバイスとペアリングしたら、すぐにコンテンツを共有できます。

ヒント：マルチスクリーンデバイスでは、スクリーンと同じ数だけ独立したプレゼンテーションを表示できます。これは非通話時のみ可能です。

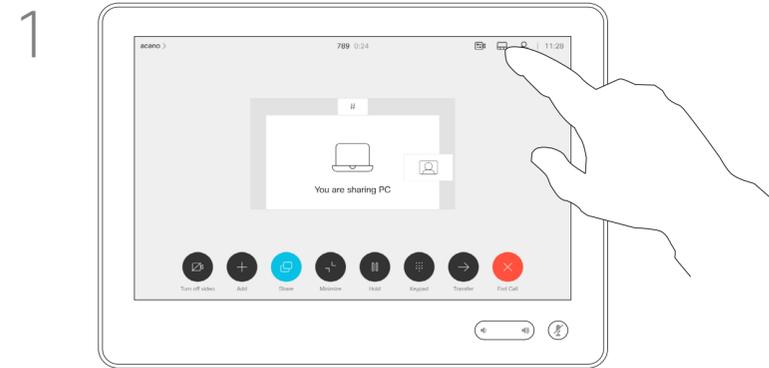
注：最初に接続するプレゼンテーションはワイヤレスで接続し、その後でケーブルを使用することをお勧めします。逆の順番で接続すると、最初の接続が切断されることがあります。

HDCP：デバイスの設定によっては、ビデオ入力コネクタの 1 つが HDCP で保護されたコンテンツを共有し、Google ChromeCast、AppleTV、または HD TV デコーダを通じてビデオを視聴できるようになっている場合があります。詳細については、前のページを参照してください。

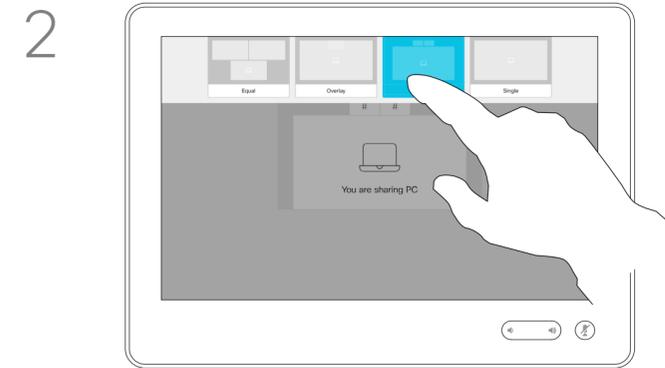
コンテンツ共有

通話中にプレゼンテーションレイアウトを変更する

プレゼンテーションレイアウトについて



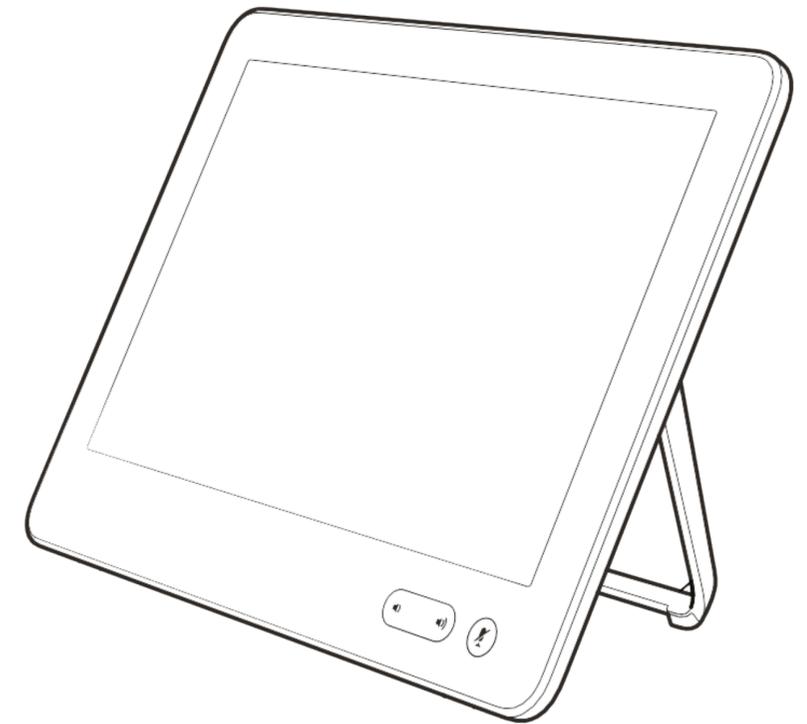
図のようにレイアウトアイコンをタップします。



使用するレイアウトをタップします。終わったらスライド以外の場所をタップします。

プレゼンテーション中に画面のレイアウトを変更することができます。一般的に使用できるオプションとして、プレゼンターを表示するかどうかと、プレゼンターを PiP(ピクチャインピクチャ)と PoP(ピクチャアウトサイドピクチャ)のどちらで表示するかを選択できます。

デバイスで使用できるレイアウトオプションは、ここに示されているものとは異なる場合があります。デバイスには、実際に選択できるレイアウトが表示されます。



予定された会議

予定された会議

予定された会議に参加する

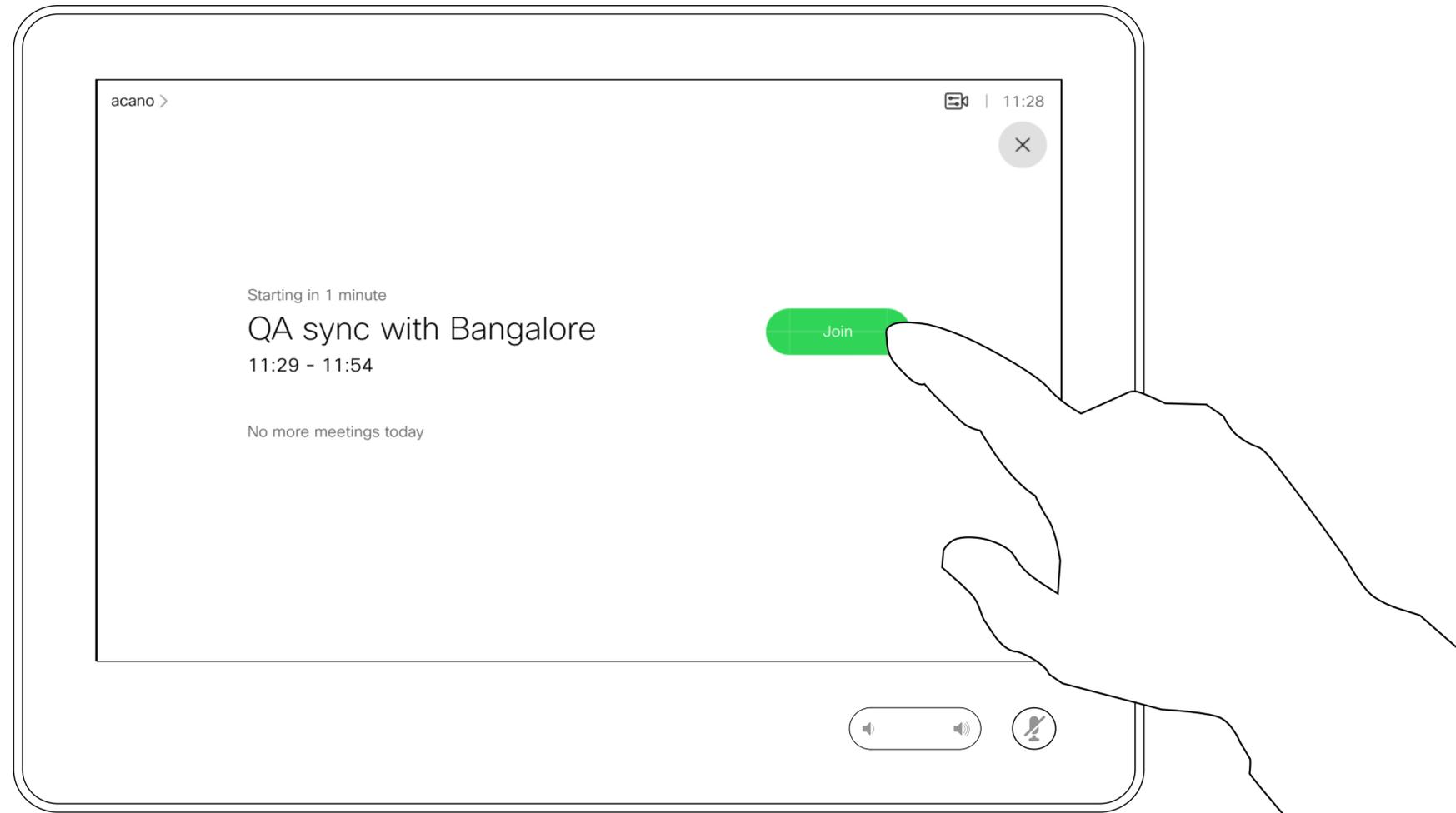
ミーティングへの参加

ビデオデバイスは、ビデオミーティングをスケジュールできる管理システムに接続されている場合があります。左の図のように、予定されている会議が表示されます。

会議に参加するには [参加 (Join)] をタップします。

会議がすでに開始されている場合でも参加できます。

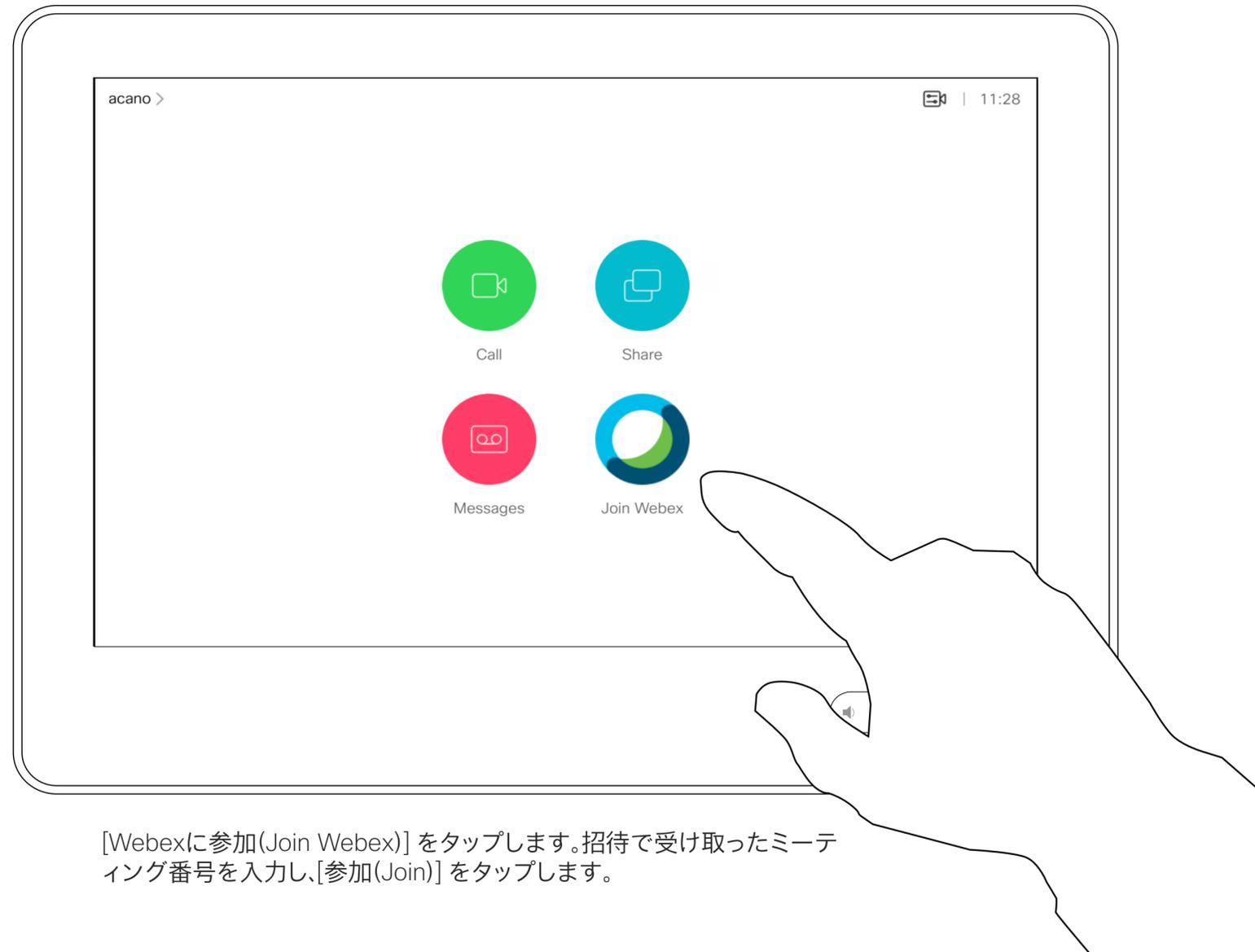
ミーティングのスケジュールがデバイス画面に表示されると、デバイスがスタンバイから復帰します。



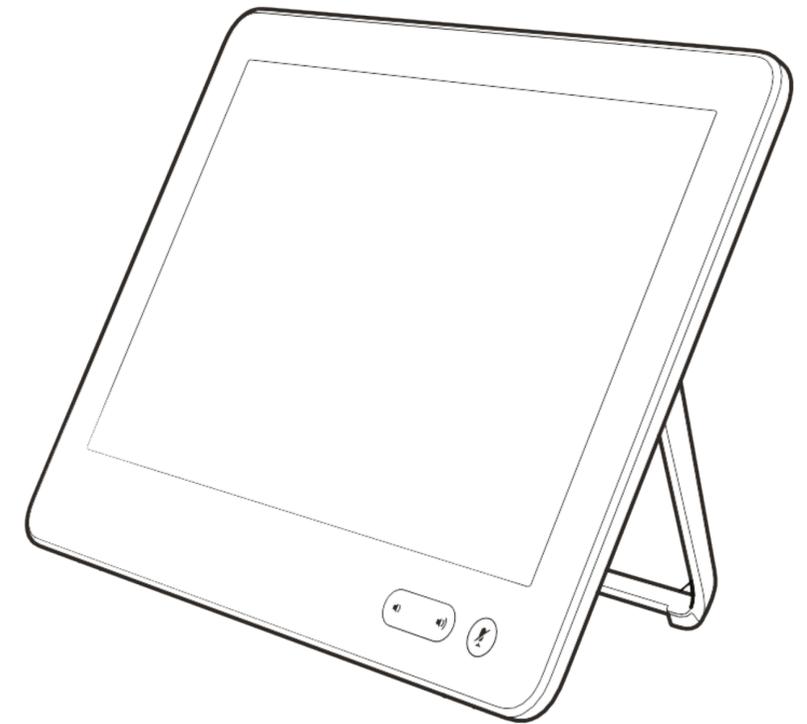
ミーティングが開始間近になると、ミーティングへの参加を促すメッセージが表示されます。[参加(Join)] をタップします。

予定された会議

Webex ミーティングへの参加



[Webexに参加(Join Webex)] をタップします。招待で受け取ったミーティング番号を入力し、[参加(Join)] をタップします。



連絡先

連絡先

お気に入り、通話履歴、ディレクトリ

連絡先リストについて

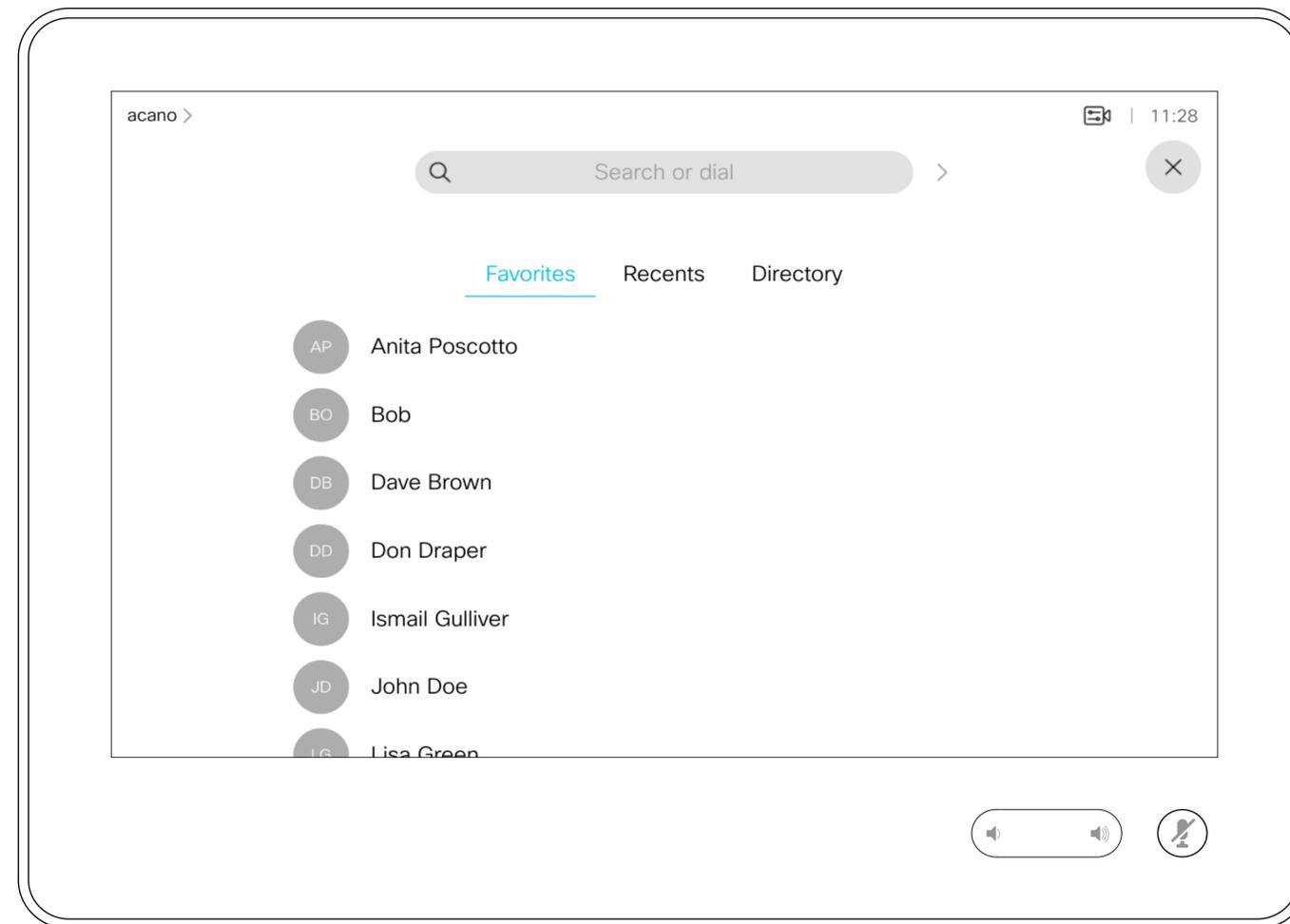
連絡先リストは、次の 3 つの部分で構成されています。

[お気に入り (Favorites)] これらの連絡先はユーザー自身が追加したものです。通常、頻繁に通話する相手や、ときどきすばやく簡単にアクセスする必要が生じる連絡先を登録します。

[ディレクトリ(Directory)] は通常、ビデオサポートチームによってデバイスにインストールされる社内ディレクトリです。

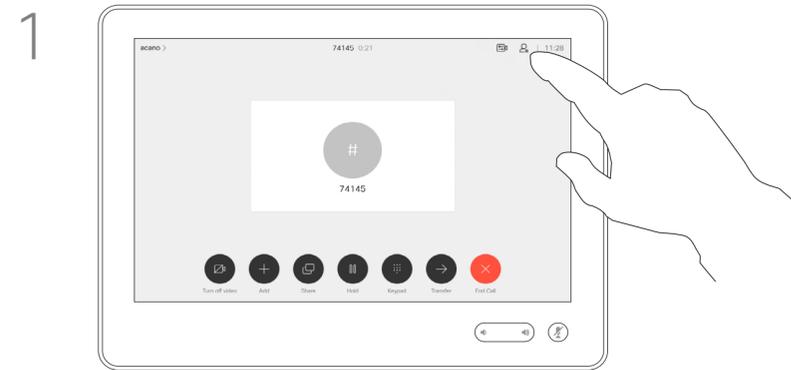
[通話履歴(Recents)] は、発信、受信、不在着信のリストです。

[発着信履歴(Recents)] からのエントリの削除は、Web インターフェイスでのみ行うことができます。

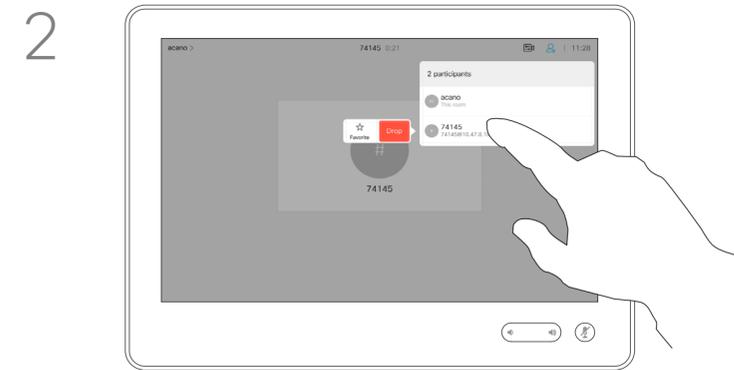


連絡先 通話中に [お気に入り(Favorite)] に追加する

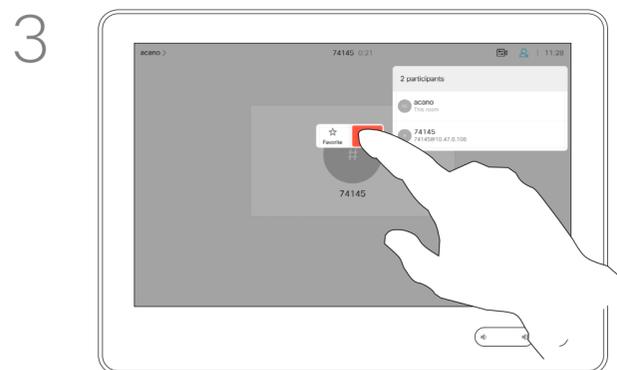
お気に入りについて



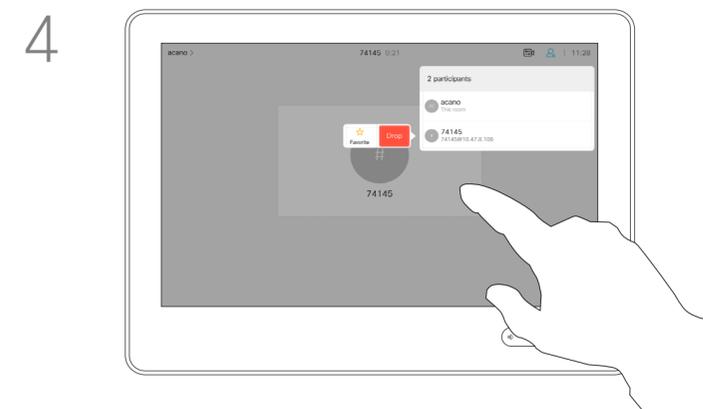
1 通話中に、図のように、右上隅の [参加者 (Participants)] アイコンをタップして、参加者リストを呼び出します。



2 参加者のリストで、[お気に入り(Favorite)] に追加する参加者をタップします。



3 [お気に入り (Favorite)] をタップします。



4 参加者が [お気に入り(Favorite)] のリストのメンバーになります(スターが金色に変わる)。

[お気に入り(Favorites)] リストからエントリを削除するには、[連絡先(Contacts)] 中の [お気に入り (Favorites)] に移動して、この手順を繰り返します。

終わったらメニュー以外の場所をタップします。

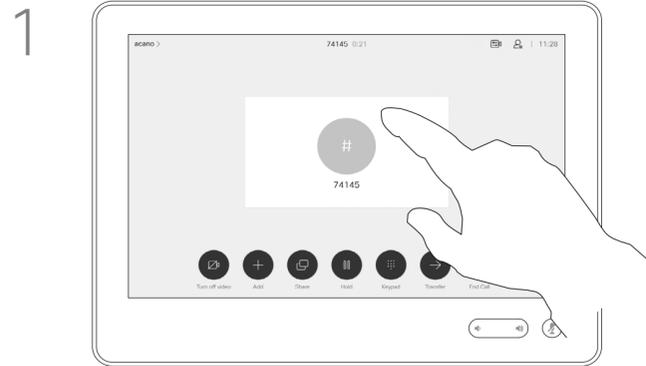
[お気に入り(Favorites)] は、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

[お気に入り(Favorites)] は、[発着信履歴(Recents)] または [ディレクトリ(Directory)] リストから選択するか、手動で入力できます。

連絡先

非通話時に [お気に入り(Favorite)] に追加する

この機能について



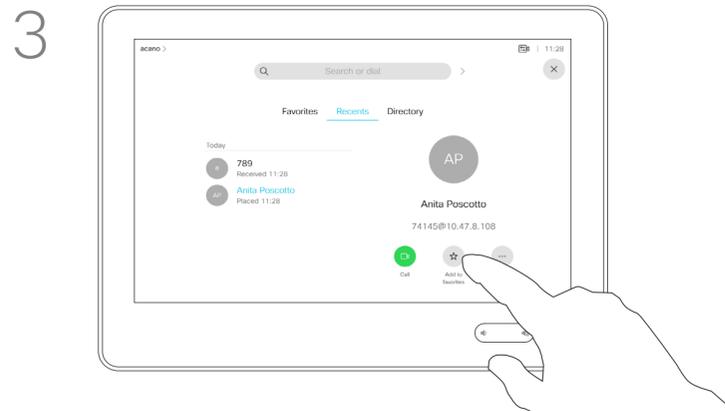
図のように、[発信 (Call)] (図示せず) をタップして、[連絡先(Contacts)] リストを呼び出します。[発着信履歴 (Recents)] または [ディレクトリ (Directory)] をタップして、[お気に入り (Favorites)] に追加するエントリを探します。



[お気に入り(Favorites)] に追加するエントリをタップすると、上図の画面が表示されます。

[お気に入り(Favorites)] は、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

[お気に入り(Favorites)] には、[通話履歴(Recents)] リストや [ディレクトリ(Directory)] リストから追加するか、手動で入力することができます。



[お気に入りに追加(Add to Favorites)] をタップします。エントリが [お気に入り(Favorite)] に追加されます。



お気に入りは、図のように金色のスターで示されます。

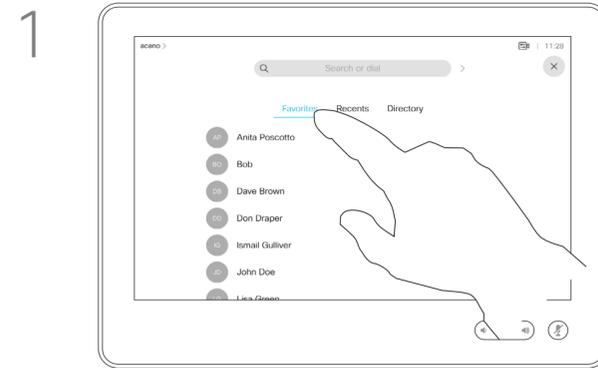
[お気に入り(Favorite)] のリストからエントリを削除するには、この手順を繰り返します。

このメニューを終了するには、図のように [X] をタップします。

連絡先 既存のお気に入りの編集

この機能について

この機能を使用すると、お気に入りをいつでも更新することができます。



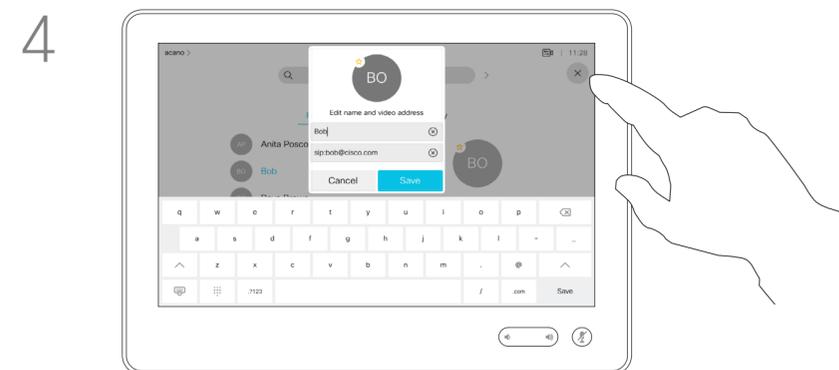
図のように、[発信 (Call)] (図示せず) をタップして、[連絡先 (Contacts)] リストを呼び出します。次に、[お気に入り (Favorites)] をタップして、お気に入りのリストにアクセスします。



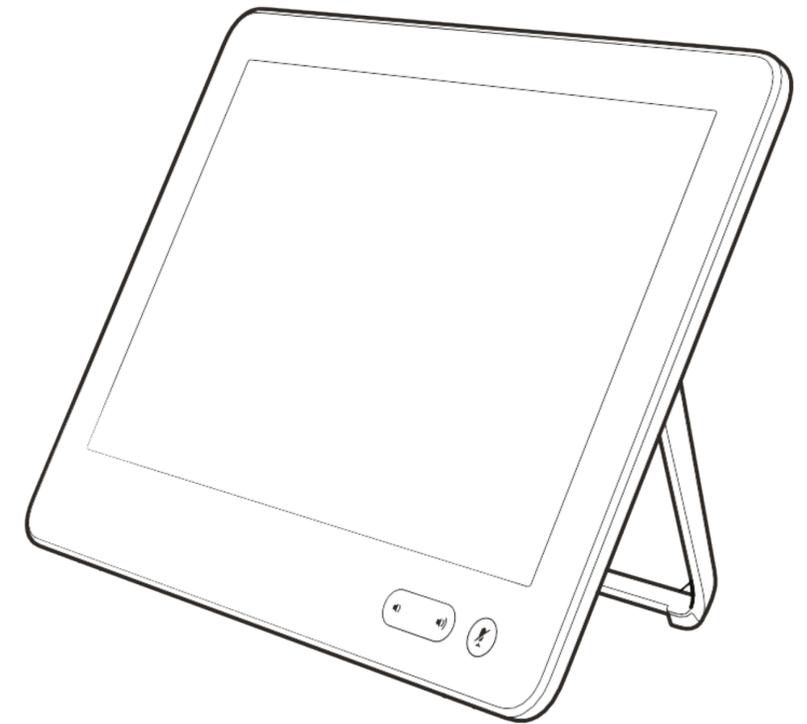
編集するお気に入りをタップします。次に、[その他 (More)] をタップします。



[お気に入りを編集 (Edit Favorite)] をタップします。

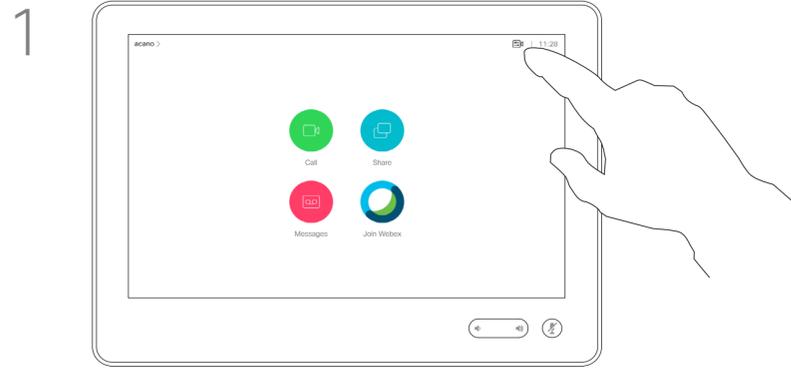


お気に入りのエンTRIESを編集し、[保存 (Save)] をタップして、変更を適用して終了します。変更を適用しない場合は、[キャンセル (Cancel)] をタップします。

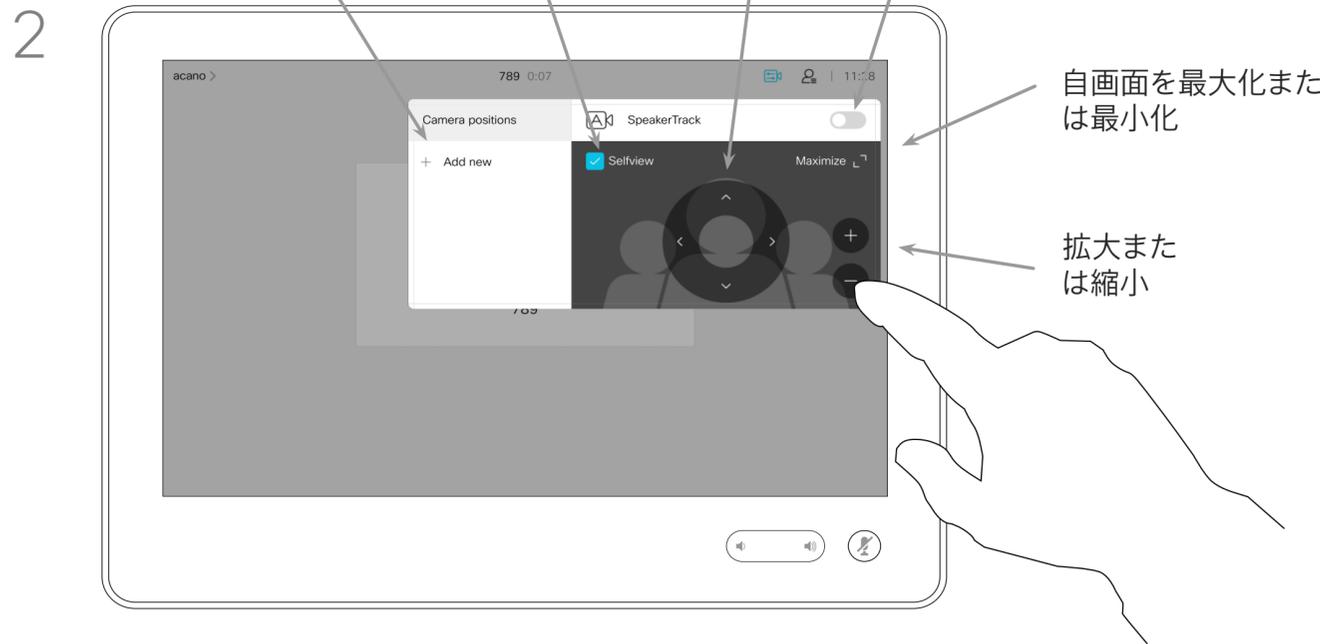


カメラ

カメラ カメラ設定の表示



1
カメラをタップして、カメラ調整メニューを呼び出します。



定義済みのカメラ
プリセットがここに
一覧表示されます。

自画面のオン/
オフの切り替え

パン コントロール/
チルト コントロール。

スピーカートラッ
キングをオンま
たはオフにします。

自画面を最大化また
は最小化

拡大また
は縮小

カメラ操作について

カメラ設定では、カメラのズーム、パン、およびチルトを制御できるほか、カメラ位置プリセットの定義と編集もできます。

さらに、自画面(デバイスから他の参加者に表示されるイメージ)のオンとオフを切り替えたり、表示を最小化または最大化したりできます。

画面の重要な部分を自画面が覆っている場合は、自画面の位置を移動できます。

スピーカートラッキングを備えたデバイスでは、この機能をオンにすると、現在話している人物にカメラがズームインします。

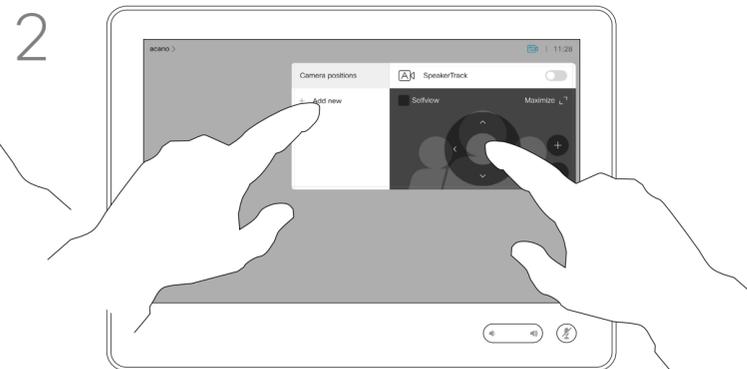
カメラ

カメラ位置プリセットの追加

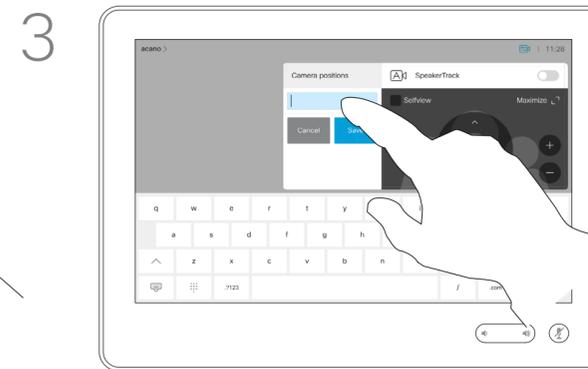
カメラのプリセットについて



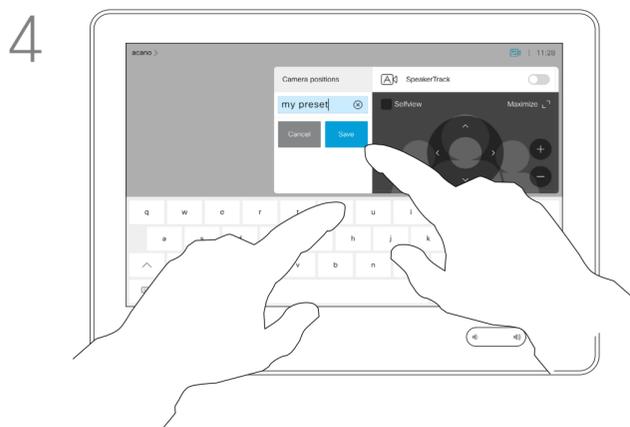
カメラをタップして、カメラ調整メニューを呼び出します。



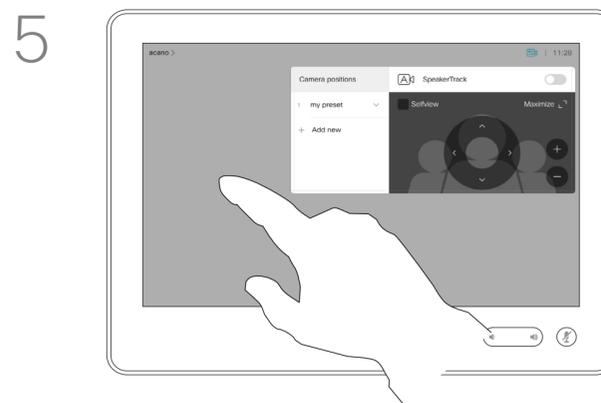
自画面は自動的に有効化されます。必要に応じて、チルト、パン、およびズームを調整します。次に [+ 新しく追加 (+ Add new)] をタップします。



テキスト フィールドをタップします。



わかりやすい名前を入力し、[保存(Save)] をタップして変更を適用します。



終わったらメニュー以外の場所をタップします。

デバイスでは、ズームとカメラの向き(パンとチルト)を事前に定義できます。必要であれば、これらを使用し、発表者にズームします。後からズームアウトすることを忘れないでください。

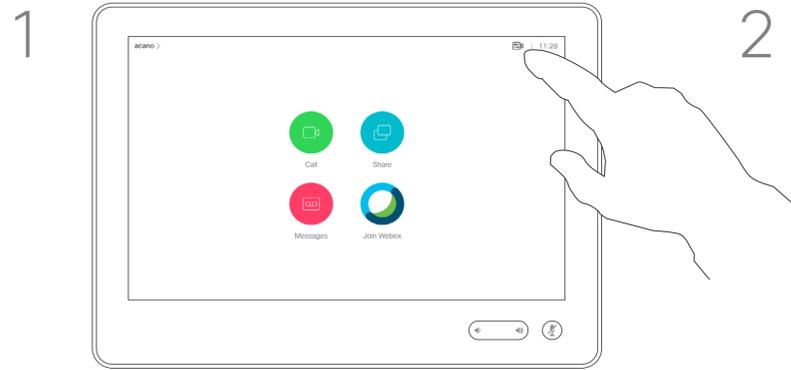
つまり、ズームイン プリセットを1つまたは複数作成する場合は、ズームアウト(全体表示)プリセットも作成して、全体表示モードに簡単に切り替えられるようにする必要があります。

他の参加者のカメラなど、相手先カメラを操作することもできますが(そのカメラが遠隔操作可能な場合)、相手先カメラのプリセットを定義または利用することはできません。

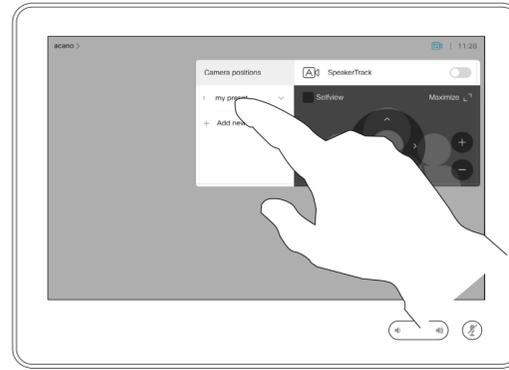
カメラ

カメラ位置プリセットの編集

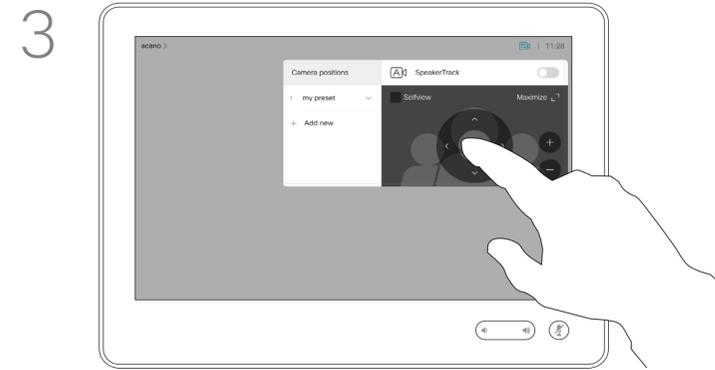
プリセット編集について



1 [カメラ(Camera)] をタップして、[カメラ(Camera)] メニューを呼び出します。



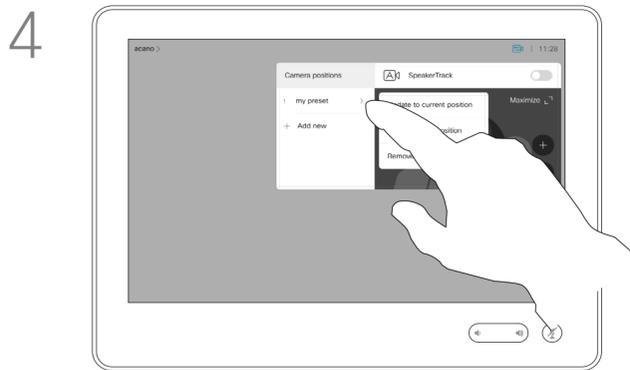
2 編集するプリセットをタップします。自画面は自動的に有効化されます。



3 必要に応じて、パンチルト、およびズームを調整します。

「プリセット編集」とは、既存のプリセットを取得して変更し、同じ名前で保存することです。

名前を変更する場合は、プリセットを削除してから、適切な名前で新しいプリセットを作成することをお勧めします。

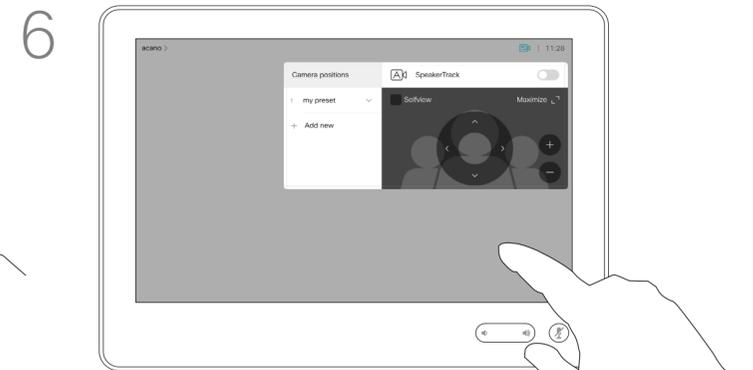


4 編集するプリセットの小さな矢印をタップします。



5 [現在のプリセットを上書き(Update to current position)] をタップして変更を適用します。

既存のプリセットを削除するには [削除(Remove)] をタップします。

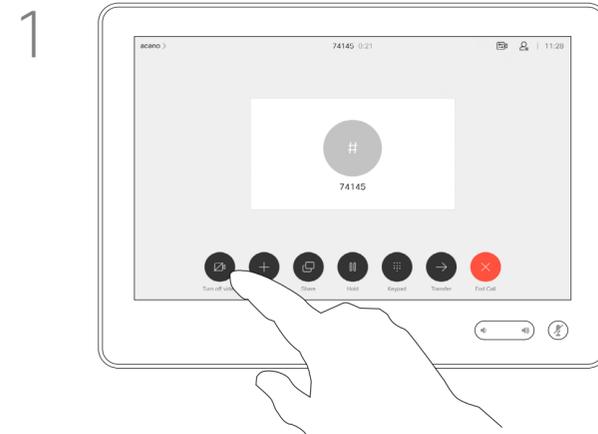


6 終わったらメニュー以外の場所をタップします。

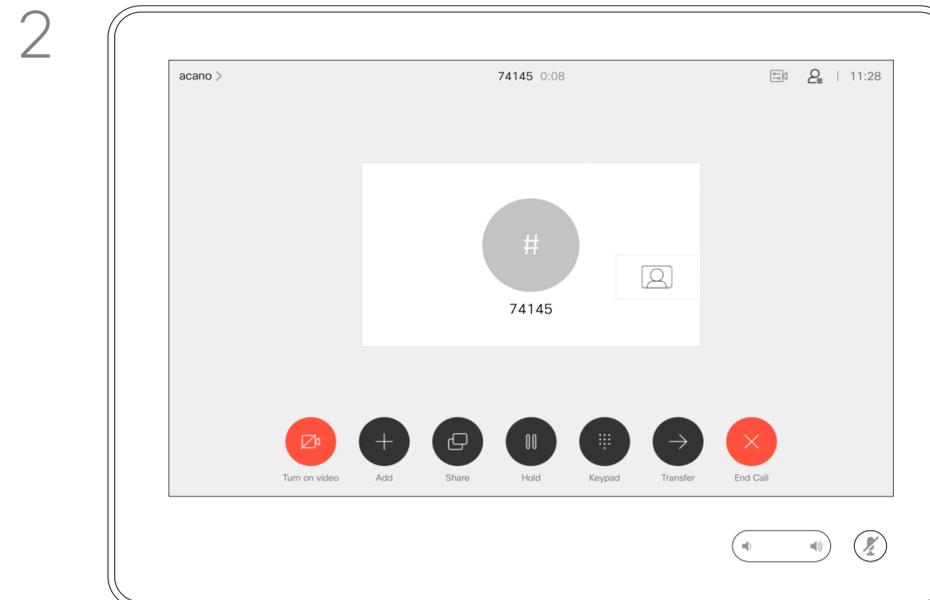
カメラ カメラのオンとオフの切り替え

ビデオオフについて

ビデオの電源オフ機能は、カメラを機械的にブロックすることができないデバイスで、カメラからのビデオ送信を制御できるようにするために設計されています。



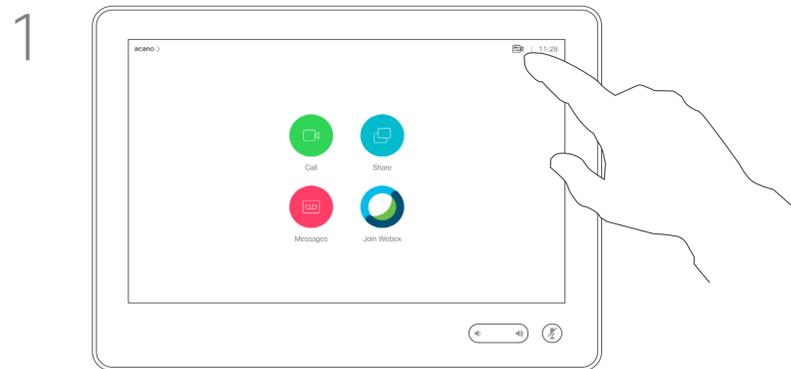
[ビデオをオフにする (Turn video off)]
をタップします(図を参照)。



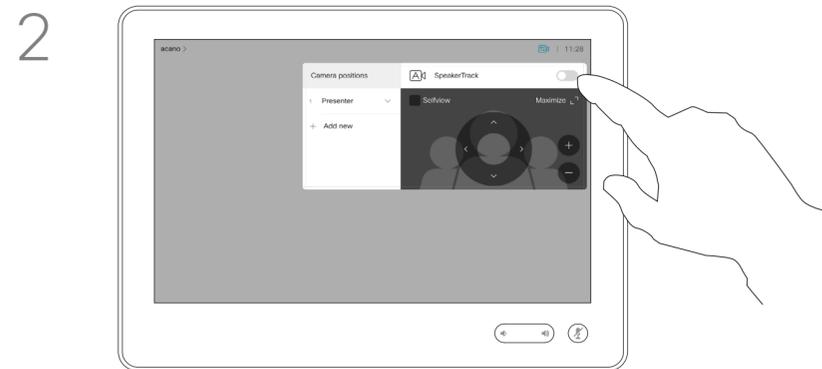
アイコンが赤色に変わり、デバイスからビデオが送信されていないことを示します。この機能を無効にするには、もう一度タップします。

カメラ スピーカー トラッキング

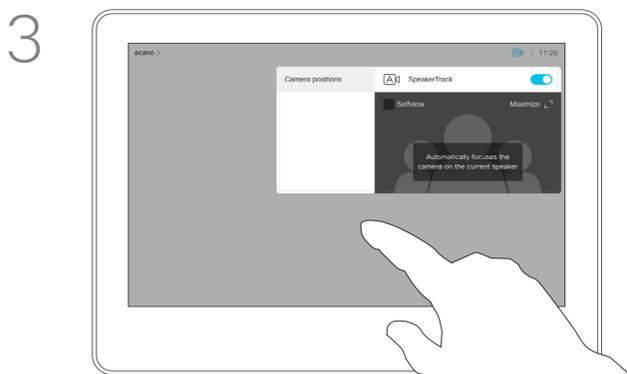
スピーカー トラッキングについて



1 [スピーカー トラッキング(Speaker Tracking)] を有効にするには、右上隅のカメラをタップします。



2 右上隅にあるボタンをタップして、[スピーカー トラッキング(Speaker Tracking)] 機能をアクティブにします。



3 メニュー以外の場所をタップして終了します。
[スピーカー トラッキング(Speaker Tracking)] を非アクティブにするには、この手順を繰り返します。

スピーカー トラッキングカメラを搭載したデバイスでは、内蔵マイクアレイと連動するカメラが使用されます。カメラが話者を追跡するため、[カメラ操作(Camera Control)] メニューや [カメラプリセット(Camera Presets)] を使用してズームイン/ズームアウトする必要はありません。

スピーカー トラッキングがアクティブになっている場合、カメラ位置プリセットは使用できません。プリセットにアクセスできるようにするには、スピーカー トラッキングをオフにする必要があります。

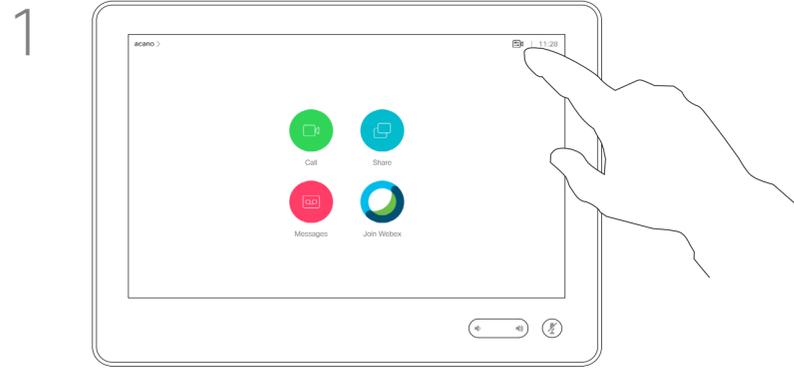
必要に応じて、このページで示されているように、もう一度スピーカー トラッキングをアクティブにします。

注：マイクがミュートになっていると、スピーカー トラッキングは機能しません。

次のページで説明するように、スピーカー トラッキングを拡張することで、ホワイトボードへのスナップ機能やプレゼンター トラッキング機能を追加できます。

カメラ プレゼンタートラッキング

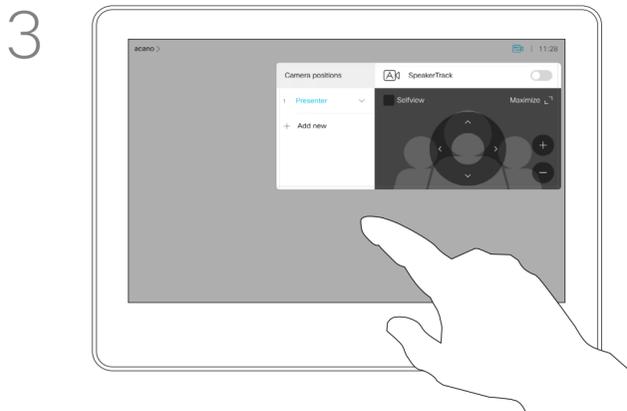
プレゼンター トラッキング について



1 [プレゼンタートラッキング(Presenter Tracking)]
を有効にするには、右上隅のカメラをタップします。



2 プレゼンタートラックが有効なデバイスでは、
のように、この機能がカメラプリセットになって
います。スピーカートラッキングがアクティブに
なっている場合、カメラプリセットにはアクセス
できません(詳細については前のページを参照
してください)。



3 メニュー以外の場所をタップして終了します。
[プレゼンタートラッキング(Presenter Tracking)] を非ア
クティブにするには、再度プリセットを押します。

スピーカートラッキング対応のデバ
イスには、[プレゼンター(Presenter)]
プリセットが付属している場合がありま
す。このプリセットを動作させるには、ビ
デオ サポート チームにより設定されて
いる必要があります。

プレゼンタートラックを使用すると、プ
レゼンテーションをしながらステー
ジ上を動き回るプレゼンターをカメラで
追跡し、ズームインして表示できます。
ステージゾーンは、ビデオサポートチ
ームによって定義されます。

プレゼンターがステージを離れると、ト
ラッキングが停止します。

この機能の設定手順およびこの機能を
サポートする製品については、ルーム
デバイスと Codec 用の CE9.2 管理
者ガイドを参照してください。

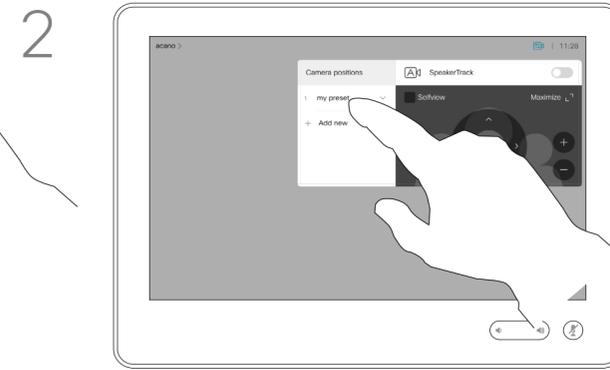
カメラ 自分のカメラの制御

プリセット編集について

カメラ プリセットを使用する



1 通話中または非通話時(この図)に、[カメラ (Camera)] アイコンをタップします。



2 使用するプリセットを選択します。



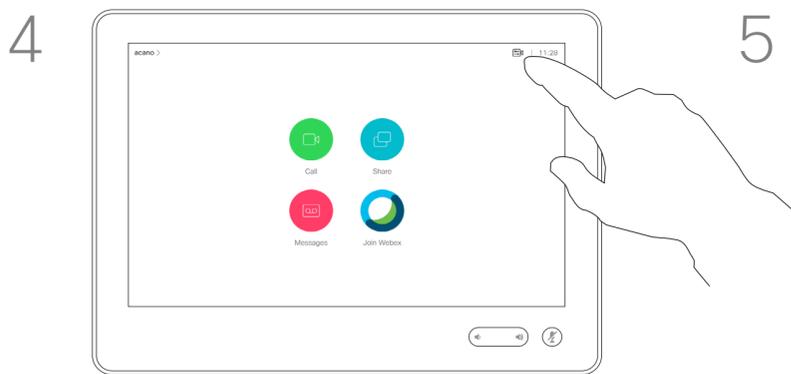
3 終わったらメニュー以外の場所をタップします。

通話中は、既存のカメラ プリセットをすぐに使用できます。

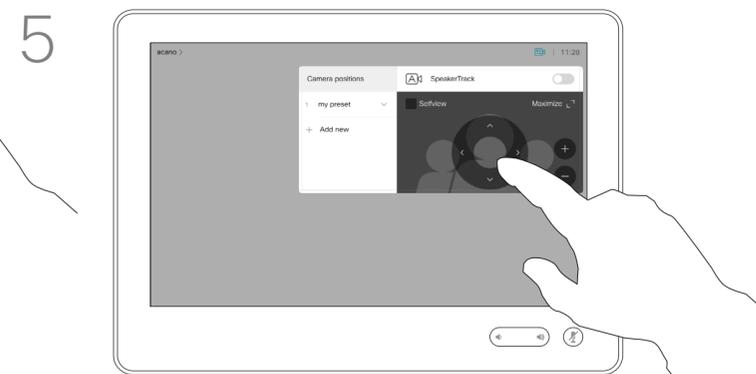
デバイスには複数のカメラが搭載されていることがあります。たとえば、1 台は参加者を映し、もう 1 台はホワイトボードを映します。

新しいカメラ プリセットを追加するか、既存のカメラ プリセットを変更する場合は、非通話時と同じ方法で行います。プリセットを追加したり、編集したりする代わりに、カメラのパン、チルト、およびズームを簡単に調整することも検討する必要があります。

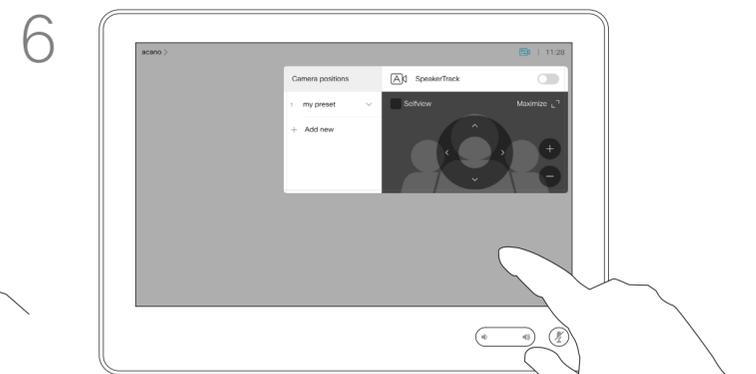
カメラのパン、チルト、ズームを調整する



4 通話中または非通話時(この図)に、[カメラ (Camera)] アイコンをタップします。



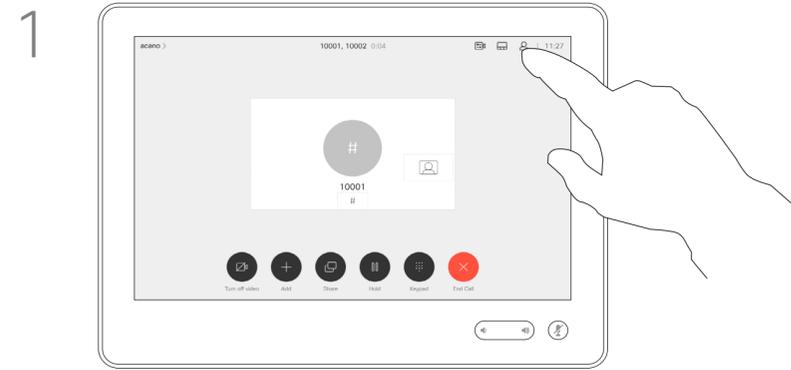
5 パン、チルト、ズームを調整します。自画面が一時的にオンになり、操作をアシストします。



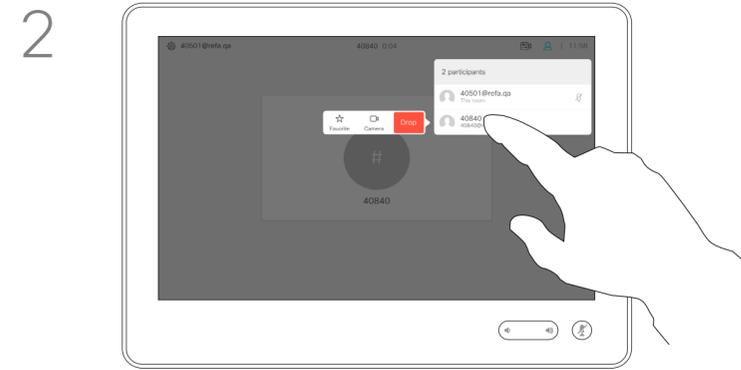
6 終わったらメニュー以外の場所をタップします。

カメラ 遠端カメラ制御

カメラ操作について



1 通話中に、図のように、右上隅の参加者アイコンをタップして、参加者リストを呼び出します。



2 カメラを制御する参加者をタップします。

ビデオ通話中、他の 1 つ以上のデバイスにリモートで操作できるカメラが搭載されていることがあります。

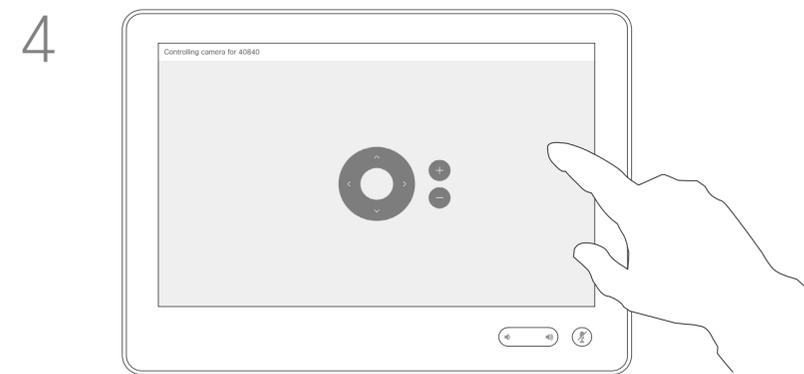
これらのカメラを自分のタッチコントローラから制御することができます。これは遠端カメラ制御(FECC)と呼ばれます。

遠端デバイスでカメラトラッキングがアクティブになっている場合(つまり、カメラが話者を追跡して表示している場合)、FECCのオプションは提供されません。

リモートカメラのプリセットにアクセスすることはできません。



3 カメラをタップします。

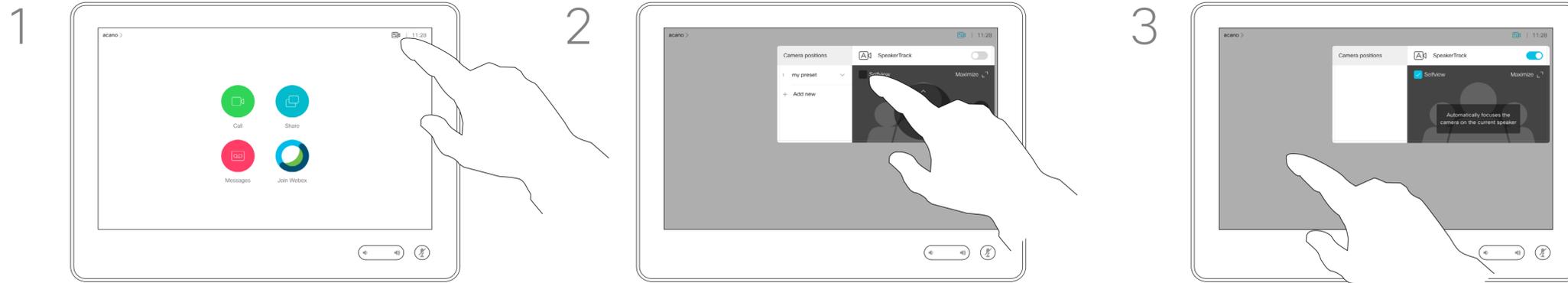


4 リモートカメラを調整します。終わったら、カメラ制御ボタン以外の場所をタップします。

カメラ 自画面の管理

プリセット編集について

非通話時の場合



1 通話中または非通話時(この図)に、[カメラ (Camera)] アイコンをタップします。

2 [自画面 (Selfview)] をタップしてオンにします。自画面イメージのサイズを変更したり(詳細は次のページを参照)、カメラのパン、チルト、ズームを制御したりできます(詳細は前のページを参照)。

3 終わったらメニュー以外の場所をタップします。

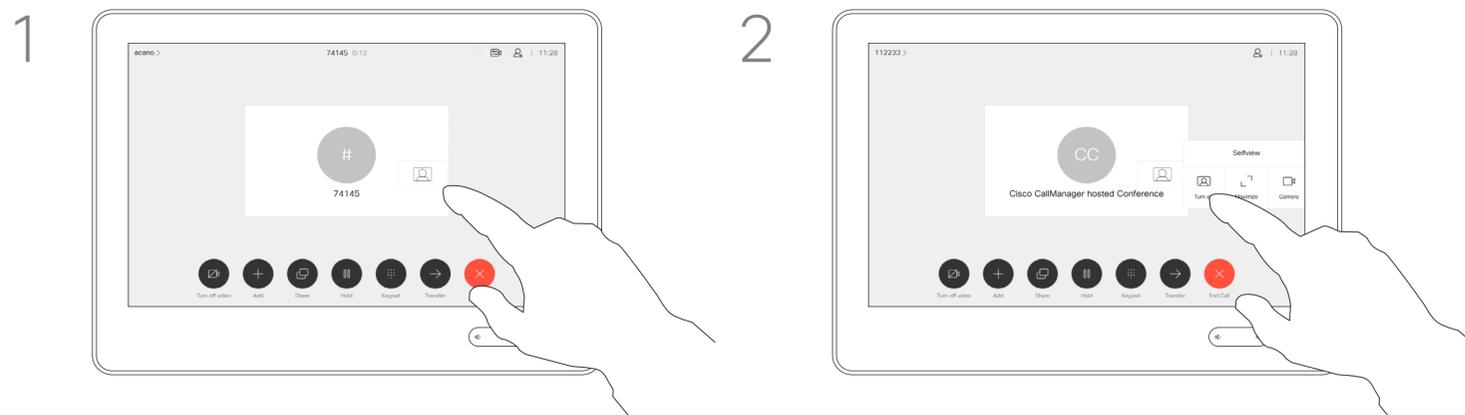
もう一度 [自画面(Selfview)] をタップするとオフになります。

自画面は、自分のデバイスから他の参加者に表示される映像を示します。これを使用すると、他の参加者に見せるべき適切な画面が見えていることを確認できます。

自画面は PiP(ピクチャインピクチャ)として表示されますが、全画面で表示することもできます(次のページを参照)。

自画面 PiP の位置は、通話中も非通話時にもいつでも変更できます。詳細については、42 ページを参照してください。

通話中の場合



1 通話中に自画面をオフにするには、図のように自画面アバターをタップします。

通話中に自画面をオンにするには、非通話時の場合と同じように操作します。

2 [オフにする(Turn off)] をタップします(図を参照)。

カメラ

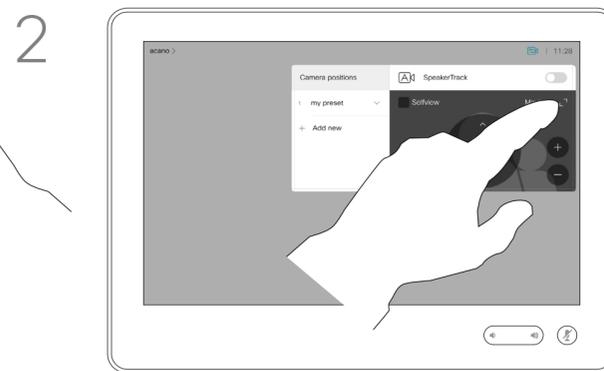
自画面 PiP のサイズを変更する

自画面のサイズを変更する理由

非通話時の場合



1 通話中または非通話時(この図)に、カメラをタップします。



2 自画面の画像のサイズを変更するには、[最大化 (Maximize)] をタップします。
最小化するには、この手順を繰り返します。



3 終わったらメニュー以外の場所をタップします。

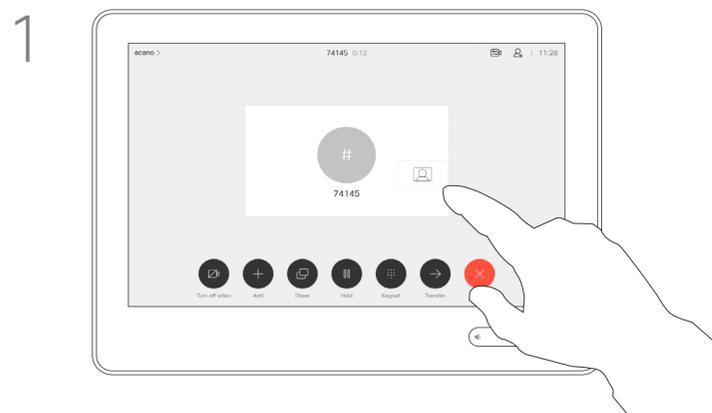
自画面は、自分のデバイスから他の参加者に表示される映像を示します。これを使用すると、他の参加者に見せるべき適切な画面が見えていることを確認できます。

セルフビューは、PiP(ピクチャ イン ピクチャ)として表示されます。

会議中に、セルフビューをアクティブにしたいときがあります。

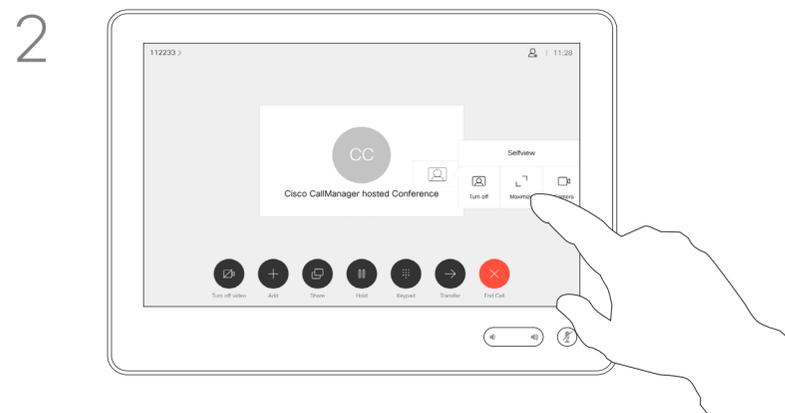
カメラをズーム、パン、またはチルトして、他の参加者により適切なビューを提供できます。自分にとって見やすいように、自画面を最大化することもできます。

通話中の場合



1 通話中に自画面をオフにするには、図のように自画面アバターをタップします。

通話中に自画面をオンにするには、非通話時の場合と同じように操作します。

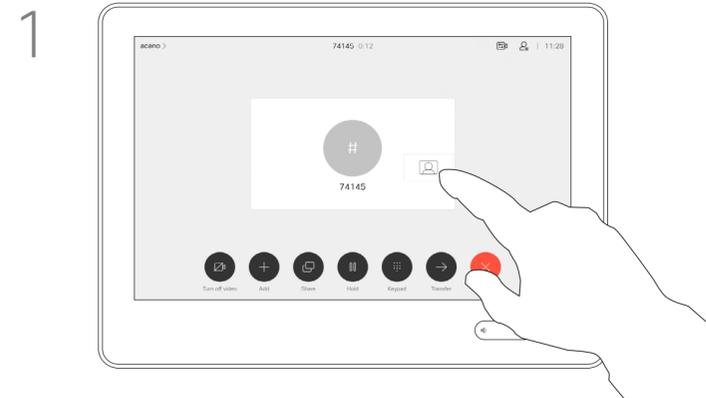


2 自画面イメージのサイズを変更するには、[最大化 (Maximize)] をタップします(図を参照)。
最小化するには、この手順を繰り返します。

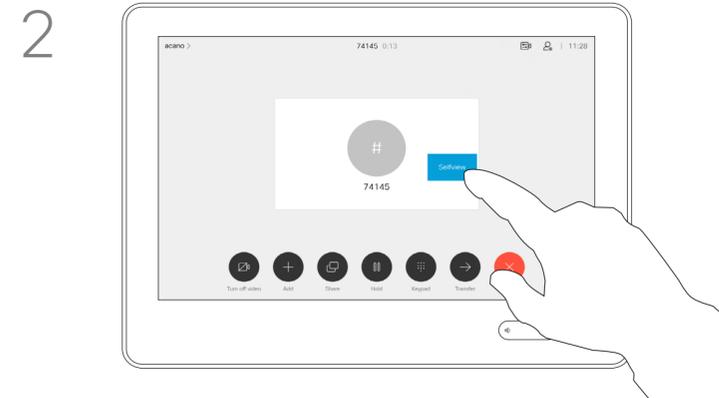
カメラ

自画面 PiP の移動

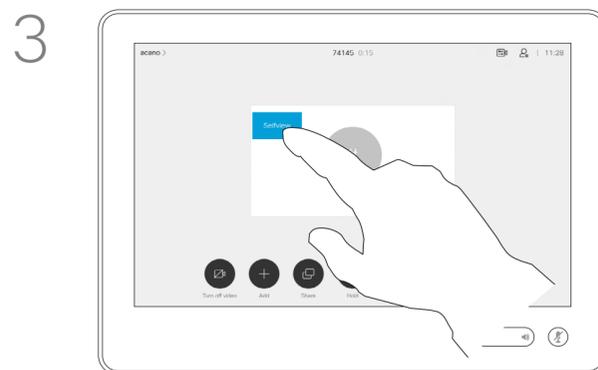
セルフビューを移動する理由



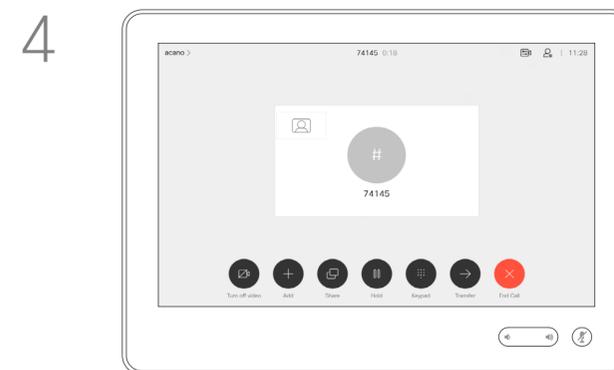
1 自画面の画像をタップしたままにします。



2 自画面イメージが青色に変わります。自画面イメージを移動できる位置が表示されます。画像をタップしたままにします。



3 画像を新しい位置にドラッグします。この例では、左上隅にドラッグしています。



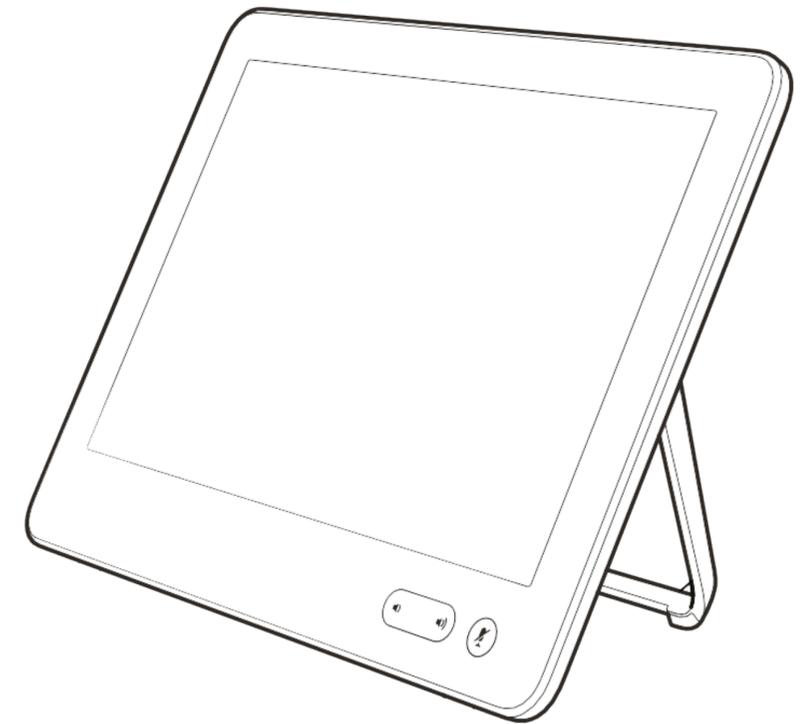
4 画面から指を離して、画像をリリースします。これで、自画面の画像が新しい位置に配置されます。

自画面は、自分のデバイスから他の参加者に表示される映像を示します。これを使用すると、他の参加者に見せるべき適切な画面が見えていることを確認できます。

セルフビューは、PiP(ピクチャ イン ピクチャ)として表示されます。

会議中に、セルフビューをアクティブにしたいときがあります。たとえば、自分が画面に映り続けていることを確認するために使用できます。

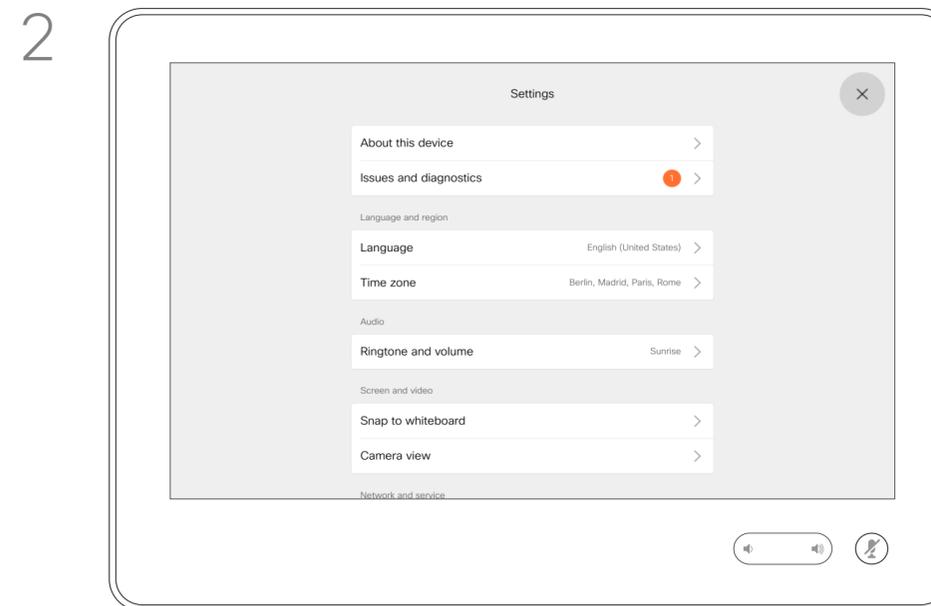
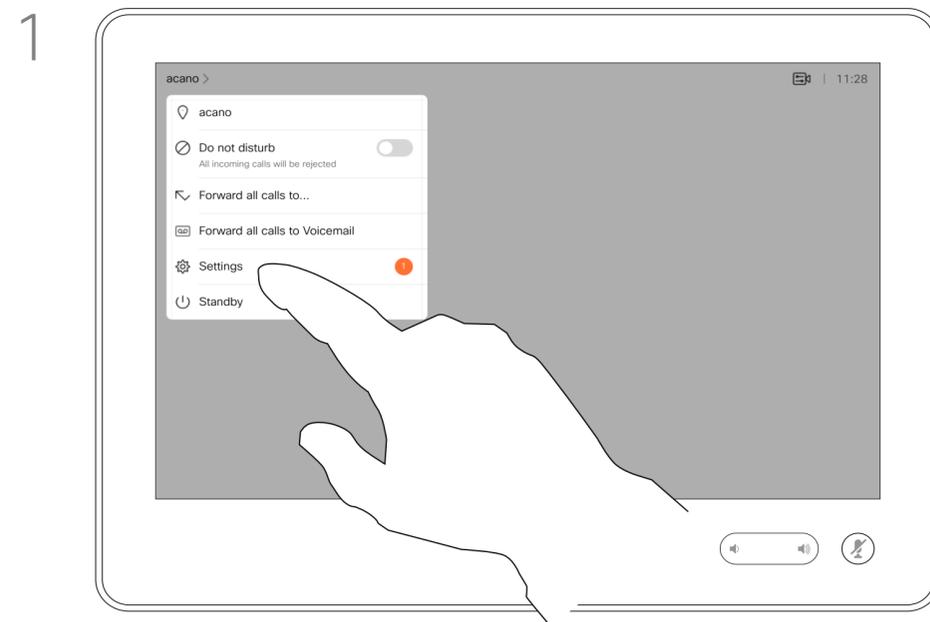
自画面の現在位置によっては、画面の重要な部分を自画面が覆っているかもしれません。このような場合、自画面を移動できます。



設定

設定 設定へのアクセス

バージョン情報管理



[設定(Settings)]メニューでは、デバイスの情報を確認したり、いくつかの設定を変更したりできます。使用可能な設定は、管理者によって制限されている場合があります。

実行できる操作には、言語の変更、着信音と音量の変更、デバイス情報の確認などがあります。

使用可能な設定は、お使いの製品と管理者が有効にしている機能によって異なります。

